

東京美術  
學校教授  
川端玉章  
高等師範學校  
圖畫教師  
柿山蕃雄  
合著

帝國  
毛筆  
新畫帖教授法  
全

東京 三省堂發行

## 目次

緒言	一
小學校ニ於ケル圖畫科ノ目的及價值	二
圖畫ノ分類及其配當	十一
臨畫ノ價值及臨畫ヲシテ有効ナラシムルニ必要ナル條件	十五
教室ノ準備	十九
教室ノ整頓及構造	十九
筆紙	二十一
姿勢及筆ノ持方	二十四
着手ノ順序及注意	二十六
點及線	二十八



濃淡	三十二
彩色圖	三十六
彩色	三十六
帝國毛筆畫帖ノ說明	三十九
寫生	四十
寫生ノ實施	四十三
思想畫	五十八
考案畫	五十八
工夫畫	六十四
結合工夫畫	六十四
分解工夫畫	六十五
圖樣ノ構設	六十八

批評及採點附記名	七十五
----------	-----

# 帝國毛筆新畫帖教授法

## 緒言

圖畫ハ、小學教育ニ於ケル、技能科ノ主要ナルモノニシテ、學制頒布ノ初ヨリ、小學校ニ於ケル兒童教育ノ必修學科トナサレタルニ關ハラズ、其進歩ノ遲々トシテ、其効果ノ顯レザルハ、慨歎ニ堪ヘザル處ナリ。畢竟ズルニ、其眞價ノアマチク一般ニ認識セラレザルト、且ツハ教授ノ方法其宜シキヲ得ザルトハ、大ナル原因トナサマルヲ得ズ。

圖畫ヲ愛スルハ、兒童寧人間ノ天稟ナリ、幼稚ノ兒童ト雖モ尙教ヘズシテ、不完全ナガラ、自己ガ思想ヲ、圖畫ニ發表セント試ムルニアラズヤ、此天賦ノ資性ニ乗ジ誘導宜シキヲ得バ、圖畫ノ進歩ハ實ニ容易ナルベシ、然ルニ、徃々勞力多キ他學科授業後ノ骨休メトシテ、唯兒童ノ

自修ニ放任スルモノナキニアラズ、コレ實ニ圖畫ノ發達ヲ阻害スル原因ニシテ、大ニ教育家ノ注意ヲ乞ハザル可ラザル處ナリ。

然レモ、吾人ハ斯ノ如キヲ以テ、我國ノ圖畫教育ニ於ケル一般ノ狀態トナスモノニアラズ、且ツ頗ル前途ニ望ミヲ屬スルモノナリ、故ニ本書ニ於テハ、敢テ圖畫ノ眞價、即圖畫ガ人ノ個性ニ如何ノ影響ヲ及ボスカノ如キ問題ニ論及セザルモ、尙圖畫ガ社會ノ如何ナル動力トナルカヲ稽ヘ、之ヲシテ秩序アル發達ヲナサシメンコトヲ欲シ、其ノ方法手段ヲ講ゼントス。

### 小學校ニ於ケル圖畫科ノ目的及價值。

小學校ニ於ケル圖畫科ノ目的トシテ、小學校令施行規則第一章第八條ニ記スル處左ノ如シ。

圖畫ハ通常ノ形體ヲ看取シ、正シク之ヲ畫クノ能ヲ得セシメ、兼テ

美感ヲ養フヲ以テ要旨トス。

尋常小學校ノ教科ニ、圖畫ヲ加フルトキハ、單形ヨリ始メ、漸ク簡單ナル形體ニ及ボシ、時々直線曲線ニ基キタル諸形ヲ工夫シテ、之ヲ畫カシムベシ。

高等小學校ニ於テハ、初メハ前項ニ準ジ、漸ク其程度ヲ進メ、實物若クハ手本ニ就キ、又時々自己ノ工夫ヲ以テ畫カシムベク、土地ノ情況ニ依リテハ、簡易ナル幾何畫ヲ授クルコトヲ得。

圖畫ヲ授クルニハ、成ルベク他ノ教科目ニ於テ授ケタル物體、及兒童ノ日常目撃セル物體中ニツキテ畫カシメ、兼テ清潔ヲ好ミ、綿密ヲ尙ブノ習慣ヲ養ハンコトニ注意スベシ。

以下敎則ノ文ヲ分拆シテ、一層明カニ、其ノ要旨ノ所在ヲ尋ネントス。所謂通常ノ形體トハ、日常兒童ノ目撃スルモノ、例ヘバ筆、墨、本、机、帽子、

或ハ鍋、釜、等ノ器具、或ハ摸樣、或ハ草木、或ハ樹木、果實、禽獸、人物ノ單簡ナルモノ等ヲ云フ、コレ等ノ形體ヲ看取シテ畫クニハ、是非共目ト手トニ依ラザルベカラズ、從テ目ト手トヲ練習スルコトハ、此ノ科ニ於テ肝要ノコトナリ、目ヲ練習スルト云フコトハ、位置、形狀、配合、色彩、濃淡等ヲ觀察スルコトニシテ、斯ク目ヲ以テ圖畫ヲ認識スルコトヲ看畫ト名ヅク、又筆ヲ取テ、線或ハ形狀、色彩等ヲ寫ス時ニハ、手ヲ運用スルコト最モ必要ナリ、然レモ單ニ手ヲ運用スルノミナラズ、亦目ノ助ニヨリテ、其位置ヲ確メザルベカラズ、コレヲ修畫ト名ヅク、コレヲ以テ見レバ、目ト手ト相俟チ相應ジテ働クコトハ、圖畫ヲ描ク上ニ於テ、最緊要ノ事ナリ。

又該規則中ニ「正シク之ヲ畫クノ能ヲ得セシメ云々」トアリ、抑モ圖畫トハ、線ト色トノ配合ニ依リテ形體ヲ表出スルモノニシテ、長、幅、厚ノ三方面ヲ有スルモノニテモ、平面上ニ表出スルモノ故、實際ト趣ヲ異ニシテ畫クコト多シ、形體ヲ看取スルコトハ、隨分困難ノ事ニシテ、往々視覺ヲ左右セラレ、是レガ爲メ誤謬ニ陥ルコト多シ、故ニ適切ナル方法ヲ授ケテ、正シク畫クコトノ技能ヲ養成セザルベカラズ、其方法トハ他ニアラズ、形體ニ關スル觀念ヲ明瞭ナラシメ、實物ト紙上ニ表出シタル圖畫ト比較對照シテ、物ノ形體ニ關スル觀念ヲ正確ナラシムルニアリ。

又、美感ヲ養フコト「トアリ、蓋シ圖畫ハ形體ノ美ヲ辨別シテ、審美ノ情ヲ養フコトヲ得ベシ、コノ審美ノ情ヲ養ヒ、想像力ヲ發達スルガ如キハ、各種畫法ノ有スル効用ニシテ、臨畫ニ於テ、形狀、位置、配合等ノ、適當美妙ナルモノヲ學ブ時ハ、物ノ位置、形狀、配合等ハ、如何ナルモノヲ美トスベキカヲ知リテ、自然ニ審美ノ情ヲ養ヒ、工夫畫ニ於テハ、工夫經

營シテ種々ノ形ヲ構成按出セシムル時ハ、能ク想像ノ力ト、審美ノ情トヲ養成スベシ、又臨畫ニヨラズ、寫生ニヨリテ調和ヲ得ルモノハ、即チ形體ノ美ヲ備ヘシモノニシテ、又種々ノ人工物、又ハ天然物ヲ精密ニ觀察スル間ニ、不知不識審美心ヲ養成スルモノナリ、之ヲ養フニハ、美ノ要素ニ就テ心得居ルコト必要ナリ、美ノ要素トハ、大體左ノ四種ニシテ、即チ

(イ)統一

(ロ)比例

(ハ)均齊

(ニ)變化

教育上、審美心ヲ啓發スルコトノ必要ハ言テ俟タズ、學校ニ於テ審美心ヲ啓發セシムルニハ、圖畫ヲ以テ主トシ、間接ニハ學校ノ位置、校舍

ノ構造、庭園或ハ衣服、或ハ起居進退等ニ注意スルコト必要ナリ、

要スルニ、圖畫ハ正確緻密ヲ要スルモノ故、其ノ觀察ヲ鋭敏ニシ、秩序ヲ愛シ、綿密清潔等ヲ貴ブノ良習慣ヲ養ヒ、又常ニ意匠ヲ凝ラスモノ故、想像力ヲ盛ニシ、審美的感情ヲ陶冶スルニ、最必要有効ノモノナリ。即チ圖畫科ハ、外界ニ屬スル形體ノ練習ニ止マラズ、内界ニ屬スル品性陶冶ノ上ニ價值アルコトハ、頗ル大ナルモノナリ。

清潔ヲ好ミ、綿密ヲ貴ブノ習慣ハ、圖畫ヲ措テ他ノ諸學科ニ之ヲ望ムベカラズ。

圖畫教育ノ目的ヲ以テ、情操ニ關係スル事ヲ後トシテ、實際問題ヲ主トスル事ハ、現時ニ於テ一般ノ否定セザル處ナリ、ユ、ニ能勢氏重譯ノ一節ヲ借リテ、圖畫ト美術工藝トノ關鎖ヲ説カン。

蓋シ、圖畫科ハ高尚ナル快樂ニシテ、又美ヲ賞重スルガ爲メノ準備ト

ナルノミナラズ、尙又諸種ノ美術工藝ニ於ケル、進歩ノ第一ノ要件タルモノナリ。

圖畫ナカランカ、熟練ナル職人ナシ製造所ニ於ケル、善良ナル監督者ナシ、最高尙ナル工藝ニ、進歩秀逸ナシ、即文明ノ證據ヲ與フルモノナキナリ。

工藝技術ニ善ク應用スル時ニ方リテ、圖畫科ヨリ導クコトヲ得ベキ利益ハ、限リナク貴重ナルモノアルナリ、圖畫ハ種々ノ商業ノ神靈ナリ、圖畫ハ國民ノ實質ヲシテ貴カラシメ、又粗雜ナル原料ノ價值ヲ百倍ナラシム、織物寶石、玩弄品、磁器、毛氈等、各種技術ニ關係アル物品ノ職業ハ、圖畫ノ原理ヲ離レテハ、決シテ行ハルベカラザルモノナリト。斯ク圖畫科ノ價值ニ就テハ、諸賢已ニ明瞭ナル解説ヲナセリ、然レドモ、吾人ハ更ニ繁雜ヲ厭フコトナクシテ、圖畫ノ價值ニ就テ述ベント

欲スルハ其故ナキニアラズ。

吾人ハ、畫ハ何ノ爲メニ學ブカノ質問ヲ、兒童ヨリ受クルコト屢々アリ、又圖畫ノ眞價ヲ疑フ處ノ教育家ヲ見ル事アリ、コレ他ナシ、一ツハ圖畫應用範圍ノ廣汎ニシテ、却テ世人ノ注意ヲ惹カザルト、他ハ從來閑人者流ノ遊樂ノ具トナシヌル、先天的感念ニ基ケルモノナリ。

泰西諸國ニ於テ、圖畫科ヲ以テ國民教育ノ必修科トナシタルハ、實ニ輓近二三十年ノ間ニアリ、其動機ハ實ニ千八百五拾一年、英國ニ於テ開設セラレタル萬國博覽會ニアリト聞ク、此博覽會出品物賣高ノ統計ニ於テ、英國産ノ工藝品ハ、最劣等ノ成績ヲ示セリ、然ルニ英國ガ唯一ノ基礎ハ商業ニアルヲ以テ、該問題ハ英國ノ爲メニ死活ノ岐ル、處ナリシナリ、爰ニ於テ熱心調査ノ結果、堅牢ヲ主トシテ古風ヲ墨守スル保守的製品ハ、已ニ買客ノ意ヲ迎フル能ハザルヲ知り、且大陸諸

國ノ美術獎勵、甚事體ニ適セザルヲ看取スルヤ、英國ハユ、ニ大英斷  
 ナ以テ、圖畫科ヲ以テ國民教育ノ必修科トナシ、ナリ、蓋シ英國國民ハ  
 擧テ職工ナリト云フモ不可ナキ國民ナレバナリ、果シテ數年ナラズ  
 シテ、英國品ハ其外觀又昔日ノ比ニアラズ、依然競爭場裡ノ覇者タル  
 事ヲ得タリ、此後大陸諸國モ、競フテ此制ニ倣ヒシハ、頗ブル妥當ノ事  
 トナサザル能ハザルナリ、我國明治ノ初メ、泰西ノ學制ヲ踏襲シテ、亦  
 等シク必修科トシテ圖畫ヲ採用スルニ至リシモ、其眞個ノ價值ノ、一  
 部識者間ニ認識セラレタルハ、輒近ノ事ト云フベシ。

實ニ、其原價僅少ナル貨材ナリト雖、之ニ加フルニ美術的裝飾ヲ以  
 テスル時ハ、十數倍ノ價格ヲ以テ、優ニ海外ノ市場ニ輸出スル事ヲ得  
 ベク、我國美術工藝品ガ、輸出品總額ノ内ニ在テ、如何ニ重要ナル位置  
 ニ在ルヤヲ見ル時ハ、美術工藝ノユルカセニシ難ク、更ニ美術工藝ノ

基礎ヲナス處ノ工人ノ、圖畫教育ノ必要ナルヲ知ルベシ。

人或ハ云ハン、國民教育ハ工人ノミノ爲メニアラズ、工人以外ノモノ  
 ニ圖畫教育ノ必要アリヤ否ハ、未確説ヲ得ル事能ハズト、然レドモ、國  
 民一般ノ圖畫的趣味増進ノ反影ハ、即チ工人ノ美術工藝品ノ精美ト  
 ナルモノニアラズヤ、實ニ一般ノ圖畫的趣味ノ増進ハ、即チ工人唯一ノ  
 伴侶ノミニアラズシテ、實ニ其父母タルモノナリ、是ニ於テ吾人ハ知  
 ル、美ヲ貴重スルノ準備、即チ一般國民教育ニ於ケル美育ノ初步ハ、即  
 チ美術工藝進歩ノ先導者ニシテ、圖畫ノ實際的運用ハ、其第一ノ要件  
 ナル事ヲ。

### 圖畫ノ分類及其配當。

圖畫ヲ分テ二種トナス、自在畫、用器畫之ナリ、自在畫トハ、目ニ知覺シ、  
 又ハ心ニ想像シタルモノヲ、自在ナル筆端ニ依ツテ、表出スルノ畫ニ

シテ、用器畫トハ、專ラ器械ノ規矩ニ依頼シテ畫ク處ノ、規則的畫法ナリ。

自在畫ヲ細別シテ、臨畫、寫生畫、思想畫、透寫畫ノ四トナス、用器畫ヲ別チテ、平面幾何畫法、投影畫法、(附陰影畫法)透視畫法ノ三トナス。

臨畫ハ、模範ニ依リ、副製的描寫ヲナスノ謂ニシテ、其方法ハ、各自ノ手本ニヨリ、又ハ共同ノ大ナル手本ニ依ル。

寫生ハ、實物ニヨリ、形狀、位置、色彩、濃淡等ノ實況ヲ、平面上ニ描寫スルノ謂ナリ、其方法ハ、或ハ豫メ備ヘタル教室内ノ實體、即チ模型或ハ實物ニヨリ、或ハ特別ノ目的ニ基ケル郊外ノ事物ヲ速寫ス、速寫ハ他科ノ參考トナルコト多シ。

思想畫ハ、考按畫、聽畫、記憶畫ノ三者ヲ包括ス、考按畫ハ、材料ヲ與ヘ、或ハ既修ノモノヲ基礎トシテ新圖ヲ求メ、或ハ分解セシメ、或ハ結合セ

シム。

聽畫ハ、或ハ說話ニヨリ、漸次畫キ加ヘシメ、或ハ說話ノ最終ニ於テ畫カシム。

記憶畫ハ、時間ヲ限リ、或ハ制限スル事ナク、充分ニ臨本或ハ實物ヲ觀察セシメテ後、之ヲ見ル事ナク畫カシム、此二者ハ屢々之ヲ實行スルヲ必要トセズ、兒童ガ思索構設ノ狀況ヲ驗シテ、之ヲ獎勵スル臨機ノ方便ナリ。

幾何畫法ハ、法則ヲ授ケ、之ガ實施ヲナサシメ、兼テ模様及其應用ヲナサシム、投影、透視ノ畫法ニアリテハ、寫生ノ時機ニ於テ、時ニ或ハ臨畫ニ於テ、簡易ニシテ且兒童ノ頭腦ニ入り易キ程度ニヨリ、實例ニ基キ其概念ヲ與フルニ止ムベシ。

透寫ハ、薄紙ヲ透シテ、多クハ細密ナル圖ヲ寫取ルモノニシテ、圖畫教



育上ノ効果ハ、比較的鮮少ナリト雖、其必要ナル場合ハ甚多キモノナリ、地圖解剖圖、挿圖等ヲ寫取ル時ノ如シ。  
 臨畫ヲ以テ、小學校ニ於ケル圖畫教育唯一ノ手段トナシタル時期ハ、已ニ經過シタルモノニシテ、以上ノ分類ヲ見テモ、如何ニ圖畫教育ガ、精神ノ應用ノ點ニ留意スルカヲ見ル、左ニ小學全科ニ通ズル圖畫時間ニ於ケル、以上各項目ノ配當比較表ヲ示サン。

臨畫、寫生畫、思想畫、配當比例表。

			高等四年
			高等三年
			高等二年
		臨	高等一年
			尋常四年
			尋常三年
		畫	尋常二年
			尋常一年
思	寫		
想	生		
畫	畫	畫	

臨畫ノ價值、及臨畫ヲ有効ナラシムルニ必要ナル條件。

自然ヲ主トシ、實物ニ範ルコトガ、畫學教科ノ適當ナル方針ナルコトハ、佛ノるろー氏ノ昔ヨリ、已ニ之ヲ説ケリ、然リ、自然ヲ描寫セル人爲ノ紙片ヲ、無意味轉々摸倣スルハ、愚ノ甚シキモノナリ。  
 然レモ、筋肉軟柔ニシテ、其使用ニ熟セザル、初步ノ畫學兒童ヲシテ、未ダニハカニ實物寫生ノ方法ヲ執ラシメ難キモノアリ、且ツ我國現時ノ狀況ハ、畫學思想ノ普及セザル、畫學ニ長ゼル教員ノ缺乏、材料供給上ノ困難ヲ免カル、能ズ、到底全ク臨本ヨリ獨立シテ、直ニ實物ヲ描寫スルニ適セザルヲ如何セン、然レモ、諸種ノ事物ニ對シテ、精緻ナル觀察ト、自在ナル手摺トヲ得ント欲セバ、徒ラニ平面的紙片ニヨリ、且ツ實物ト疎隔シテ、無意味ノ塗抹ヲ事トスルノミニテハ、何等ノ効果

ヲ生ズルコトナキハ、實際上疑ヲ容ル、ノ餘地ナカルベシ、即チ夥多ノ兒童ニ就テ觀察スルニ、其多數ハ、臨本ニテ殆ント手本ト逕庭ナキマデノ良畫ヲ出シ得ルモ、試ミニ、一旦實物ヲ以テ之レニ供シ、摸寫セシムルキハ、其拙劣甚著シク、手本臨摸トハ、其相違最甚シキヲ目撃スルコト、概ネ然ラザルハナシ、畢竟兒童ヲシテ手本ヲ摸セシムルハ、最終ノ目的ニ非ラズシテ、其手段ニ外ナラズ、手本ヲ摸セシムルノミニ依リテ、何ゾ其視力ヲ精確ニシ、手摺ヲ自在ナラシムルヲ得ンヤ。國民教育ノ現状、全ク畫手本ヨリ獨立スル能ハズトスレバ、價值アル臨本ニヨリ、且ツ之レヲシテ價值アラシムベキ方法ヲ備ヘザルベカラズ、之レ果シテ如何。

強健ナル筆意、流麗ナル描法ハ、吾人ノ畫手本ニ望ム所ナリ、然レモ初等ノ教育ニ待ツ處ハ、必ズシモコレヲ先キトセズ、即チ先ヅ簡易ナル實物ニ接着シテ、滯リナク、完全ナル形態ヲ、畫キ出サシムルニアリ。然レドモ、良好ナル手本ノ人爲的ナル形狀、位置、配合ニヨリ、常ニ目ヲ其美妙ナル處ニ慣レシムルキハ、審美的觀念ヲ涵養スルノ利益多クケレバ、手本ノ撰擇ハ決シテ忽カセニスベカラズ。

運筆上ノ難易繁簡ノ順序ハ、世風ニ定説アリ、然レモ、徒ラニ之ニ拘泥シテ、沒趣味ノ描法ヲコレ勉ムルハ、兒童ヲシテ、徒ラニ厭怠ノ念ヲ發セシムルノミ、運筆法ノ順序ニ適合シタル題目ヲ撰ミ、主眼ヲ定メ、勉メテ兒童ノ嗜好ニ投ズルキハ、不知不識ノ間ニ於テ、其目的ヲ成就スルコトヲ得ベシ。

手本ニヨリ、平生修練セシコトヲ、實物摸寫ニ應用シテ、些少ノ遺憾ナカラシメント欲セバ、手本ト實物トノ連絡ニ留意セザル可カラズ、即チ手本中ノ題目ハ、兒童ガ平生親シク見聞スル處ナラザルベカラズ。

兒童ノ平生身邊ニアル處ノ、器什等ノ教育的ナルモノハ、其直ニ攝取スベキ好材料ナリトス、凡テ虎豹駱駝ノ珍奇ヲ棄テ、馬牛豚犬ノ平凡ニ就クガ如キ、手本ト實物ト、彼此對照スルノ便ヲ得セシムルハ、手本ニ必要歛キ難キ條件トス、斯ノ如キモノハ、初學者ガ實物ニ直接スルニ當リ、如何ニシテ之レヲ一平面ニ描キ顯スベキカノ、運筆陰影ノ疑惑ヲ了解スルコト甚迅速ナルベシ。

然リト雖モ、手本ハモト死物ナリ、其材料描法ノ順序撰擇、如何ニ精良ナリト雖モ、畢竟形而下ノモノニ過ギズ、圖畫ヲシテ眞ニ其效果アラシムル處ハ運用ニアリ、其妙ハ實際教授者其人ニ存ス、如何ニ精良ナル教科書ナリトモ、教員其人ニシテ、漫然放任シテ顧ミザレバ、即チ圖畫ハ目的ナキ徒勞トナリ、手本ハ死物トナリ了ランノミ、圖畫ノ教員ニシテ、兒童ガ一圖ヲ描ク毎ニ、手本ノ題目ニ就キ、必要ナル說話ヲナ

シ、一々其實物或ハ近似ノ材料ヲ示シ、其形狀、性質、位置、各部ノ長短、遠近等ニ就テ、反覆叮嚀ナル說示ヲナスニ吝ナラズ、精密ナル形態等ヲ、兒童ノ腦裡ニ印象セシメ得タル後、始メテ手本ニ就キ落筆セシムルキハ、臨本ヲシテ、眞個其價值ヲ成サシムルノ方法ヲ盡シタルモノト云フベシ。

### 教授ノ準備。

#### 教室ノ整頓及構造。

我國ノ現勢ニ於テ、未ダ圖畫科ノ爲メ、其目的ニ適シタル特別ノ教室ヲ構設シ得ベカラズ、然レドモ、光線變化少クシテ、且左方ヨリノミ光線ヲ入ル、處ノ教室ヲ以テ、習字科ト兼用シテ、專用教室ヲ準備スルコトヲ得バ、満足スベキコトナリ、是レ寫生ヲ課スルノ時ニ於テ、殊ニ其必要ヲ見ル、斯ノ如キ場合ニ於テ、教室ハ(或ハ他科ト共同シテ)内部

ノ諸用具ト共ニ、清潔及整正ヲ維持スル事ヲ留意スルヲ要ス、コレ教室整頓ニ關係アルノミナラス、清潔ヲ尙フハ圖畫ノ目的ノ一ナルバナリ、若シ能フベクンバ、臨本受ケテ正面ニ有スル机ヲ準備スベシ。

筆。紙。

線描筆。主トシテ、線ヲ描クニ用ユルモノナリ、初歩ニ於テハ只コレノミニテ足レリ、改良筆(線描筆)トテ圖ノ如キモノアリ、或ハ普通ノ水筆ヲ用フ、初年級ニアツテハ、特別ナル畫筆ヲ用意セズシテ、或ハ習字用ノ水筆ヲ用ヒシムルモ可ナリ、凡テ筆ノ良否ヲ鑑別スルニハ、習字ト同ジク甚必要ナリ、即主ニ其尖部分ヲ濕シ、平ニ之ヲ壓シテ鑿ノ如クナルヲ可トス、即甲ノ如シ、乙ハ其劣等ナルモノナリ。

面相筆。圖ノ如シ、コレ細密ナルモノヲ描クニ用フ、線描筆ノ一重ナリ、高級(高等三年級位)ニ至ラザレバ其要ナシ。



彩色筆。彩色ヲ課スルニ至テ用フ、最柔軟ナルヲ可トス、即圖ノ如シ、或ハ水筆ヲ用フ、二本以上ヲ用意スルモノハ、赤青等ノ繪具ノ種別ニヨリ、用途ヲ區別スルヲ要ス、黃、朱、紅ノ筆、藍、青、紫ノ筆等ノ如シ。

渲暈筆(隈筆或ハ曲筆トモ云フ)。平面塗及渲暈ヲ課スルニ至テ用フ、圖ノ如シ。

以上數筆ハ、其使用後、必清洗シテ水分ヲ去ルヲ要ス、彩色渲暈筆ニ至テハ、使用中屢々洗滌スルノ必要アルモノナリ、一般ニ、毛根ト筆筒ノ接續確實ナルヲ要ス、コレガ爲メ引通筆ヲ好ム、即毛根ヨリ絲ヲ管中ニ引通シテ他端ニ固定シタルモノナリ。

木炭及羽箒。木炭ハ圖畫用ノモノ到ル處ニアリ、柳箒ヲ蒸燒ニシ、或ハ檜木ヲ燒キ用フルモヨシ、尋常科ニ在テハ、鉛筆ヲ代用スルモ可ナリ、ユノ時ハ消護膜ヲ用ヒシムベシ、木炭ヲ挿スニ用フル木炭ハサミアリ、羽箒ハ多ク鴨羽ヲ用フ、小ナルモノニテ可ナリ、木炭ハ圖取ニ用ヒ、羽箒ハ之ヲ拂ヒ去ルノ用ニ供ス。

墨硯及文鎮。共ニ習字用ノモノヲ兼用ス、硯ハ使用後清洗セシムベシ、宿墨トテ、前日ノ使用残りヲ用フル事ハ、畫ヲ汚穢スルノミナラズ、衛生上ニモ害アリ、禁ズベシ。

筆洗及皿。筆洗ハ白色陶器ニシテ、二區劃アルヲ上トス、他物ヲ代用スルモ妨ナシ、破損ノ患アルヲ以テ、亞鉛鐵葉製ノモノヲ用フルヲ可トス。皿ハ成ベク、底平ニシテ白色ナルヲヨシトス、通常ノ小皿ニテ可ナリ、ユノ代リニ數個ニ區劃シアル菊皿ヲ用フレバ、マタ輕便ナリ。用紙。練習ニ用フベキモノハ、紙質ヲ撰マズ、清書ニ於テハ、半紙ヲ用フルモ可ナリ、然レドモ、平塗以後ニ於テハ、礬水引ノ半紙ヲ使用スルモノトス、礬水引ノモノ坊間紙舗ニアリ、然レドモ、其製方甚簡易ナリ

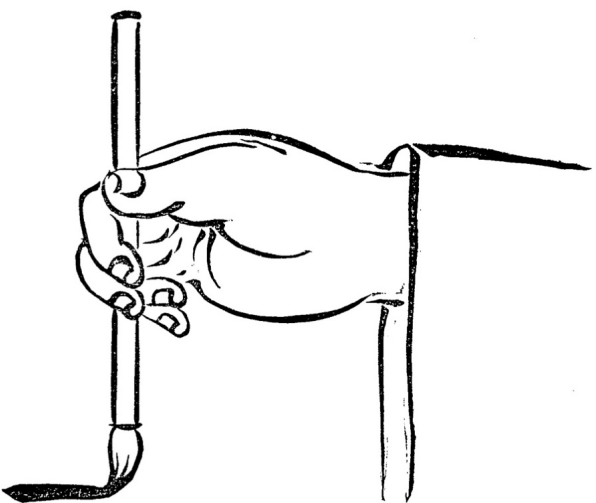
上級ノ兒童ニハ之ヲサシムルモ可ナリ、其方法及分量左ノ如シ。  
 晒膠十匁ヲ水一升ニ投ジ、煮沸シテ膠ノ液トナルニ及ビ、生明礬五匁  
 ナ加ヘ、攪拌シテ後、布ヲ以テ瀘過シ、其冷却スルニ及ビ、刷毛ヲ以テ平  
 ニ紙上ニ塗布スベシ、毛布ノ上ヲ可トス、太キ繩ニ懸ケテ陰乾トナス、  
 半乾キテ粘着ノ患ナキニ及ビ、重疊シテ重量ノモノニテ壓シタルマ  
 、放置シ置クナリ、之ヲ職業トスルモノハ、卷出機ヲ用ヒ、或ハ砧ヲ以  
 テ臺上ニ打チ、小皺ヲノバス。

### 姿勢及筆ノ持方。

姿勢ニ就テハ、教師ノ嚴正ナル監督ヲ必要ノ事トス、コレ圖畫ノ効果  
 ノ上ニ於テノミナラズ、生理上忽諸ニ付スベカラザルナリ。  
 即、下脚ハ正シク椅子ノ前方ニ垂直ニ併列セシムベシ、一脚ヲ以テ他  
 脚ノ上ニ重キ、椅子ノ側方、殊ニ甚シキハ机ノ側方ニ放出スル如キ事

アルベカラズ、幹部ハ頭ト共ニ真正ニシ、且机ニ正面ス。

第 二 圖



右手ヲ以テ筆ヲ持ツノ要領、習  
 字ト異ナル事ナシ、即筆管ヲ其  
 中央ニ於テ、拇指ト食指中指ノ  
 間ニ挾ミ、小指ト共ニ、無名指ヲ  
 輕ク其内方ヨリ添フ、之ヲ雙鉤  
 法ト稱ス、筆ハ常ニ紙面ニ直角  
 ニナルヲ要ス、腕ハ机面ニ觸接  
 セシムル事ナク、水平ニ維持ス、  
 指ハ單ニ筆ヲ支フルニ過ギズ、  
 運筆一ニ腕ノ進退ニ任セザル  
 ベカラズ、即懸腕法ナリ、指端ニヨリ筆ヲ前後左右ニ動かシムル事ア

ルベカラズ。

細密ナルモノヲ描ク場合ニ限り、枕腕法ヲ用フ、卽手首内側ニ於テ、輕ク紙面ニ接ス、此時ニ於テ、該部ヲ一處ニ固着スルヲ禁ズ、然レドモ、之等ハ主トシテ描線ニ就テ述ベタルモノナリ、彩色筆、渲暈筆ヲ用フルニ當リテハ、必シモ之ヲ墨守スルヲ要セズ。

左腕ハ輕ク臂ヲ屈メ、成ベク肘ヲ机面ニ觸接セシムル事ナク、主ニ手ノ外側ニヨリ、輕ク机邊ニ接シ、且ツ兼テ紙邊ヲ押フ。

目ノ位置ハ、常ニ一處ニアリテ、畫面ニ對シ近接セズ、其距離一尺ナルヲ要ス、然ラザレバ、其一部ヲ見ルニ便ニシテ、シカモ同時ニ其大體ヲ觀察スル能ハズ、從テ畫圖ノ比例ヲ失フ事多ク、且之ガ爲メ身體上部屈曲ノ弊ヲ招クニ至ル。

### 着手ノ順序注意。

思想畫、臨畫、寫生畫ノ何レヲ問ハズ、最注意スベキハ、着手ノ始ニ於ケル用意ナリ、初學者ニ在テ、輕卒ニ木炭筆ヲ下シテ、屢々羽箒ヲ弄スル事多シ、コレ手腕ノ未熟ナル時期、止ムヲ得ザルトハ云へ、多クハ最初ヨリノ用意周到ナラズシテ、修正ヲ豫期シテ下圖ヲ作ルノ弊ナラズンバアラズ、斯ノ如キハ、所謂手ノ熟練ヲ養フ所以ニアラズ。

毛筆畫ニ在ツテハ、普通木炭ヲ以テ大體ノ下圖ヲ作り、墨ヲ下スニ當リ、羽箒ヲ以テ輕ク其面ヲ拂フ、其痕跡ニヨリ筆ヲ下スナリ、初年ニ於テ鉛筆ヲ代用シテ便利ナル事アリ、下圖ニ於テハ、圖中主要ナル位置、卽數多ノ線形等ガ、コレヨリ支出スルガ如キ點ヨリ始ムルヲ可トス。コレ圖ノ一隅、枝葉ノ處ヨリ始ムルキハ、漸次其誤差ヲ増大シ、甚シキハ紙外ニ溢ル、如キ事アルベシ。

既ニ着手スレバ、成ルベク先ヅ大體ノ輪廓ヲ取りテ、漸ク細部ニ及ボ

スヲ要ス、筆ヲ下スハ概テ描線ノ方ニ從ヒ、且、凡、下ノ順序ヲ取ル、即チ主眼ヨリ始ムベキ事、中央ヨリ始ム可キ事、最モ目ニ近キモノヨリ始ムベキ事、全形ヲ他形ノ上ニ露出セルモノヨリ始ムベキ事等ナリ。作業ノ始メヨリ、定規ノ使用ヲ禁ズベシ、コレ練習ニ害アレバナリ、畫紙及手本ニ縱横ノ線ヲ設ケシムルガ如キモ、初歩ニ於テ便法ナリ、尤モ上級生ニ至リテハ、成ルベク斯ノ如キコトヲ避クベシ、若シ寫生ニ當リテハ、如何ニシテ實物上ニ十字ヲ印スルヲ得ン、コレヲバ單ニ想像線トシテ、目ノ練習ニ益セシメテ可ナリ。

### 點及線。

點ヲ打ツノ法ハ、單一ナル筆法ヲ用ヒシムベシ、所謂點苔法等ノ事ハ、幼稚ニ授ツクルノ要ナシ、即圖ノ如キ運筆ヲ用フベシ。

線ヲ描クハ速キニ失スベカラズ、渴筆ヲ生ズルハ忌ムベキ事ナリ、遲

キニ失スレバ澁滯ヲ生ズ、靜カニシテ滯ラザルヲ要ス、即幾多慣熟ノ後ヲ待ツベキ事ナリ。

### 第三



### 圖

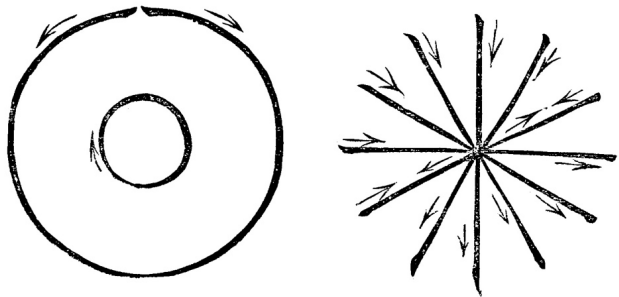


兒童ニ描法ヲ授クルニ當テハ、先二點ヲ定メ、之ヲ連結セシムベシ、コレ其後ニ於テ、始終ノ兩位置ヲ看取シ、目的アル線描ヲナス事ニ慣レシメンガ爲ナリ。

運筆ノ方向ハ、通常水平ナル線ハ左ヨリ右、垂直ナル線ハ上ヨリ下ノ順序トス、斜線ニ在テハ、右上ヨリ左下、左上ヨリ右下トス、然レドモ傾斜ノ度ニヨリ、何レヨリシテモ可ナルコトアリ、反テ反對ノ順序ヲ取ルハ、複雑高尚ナル曲線ニ於テ數々アル處ナリ、殊ニ小距離間ヲ多シトナス。



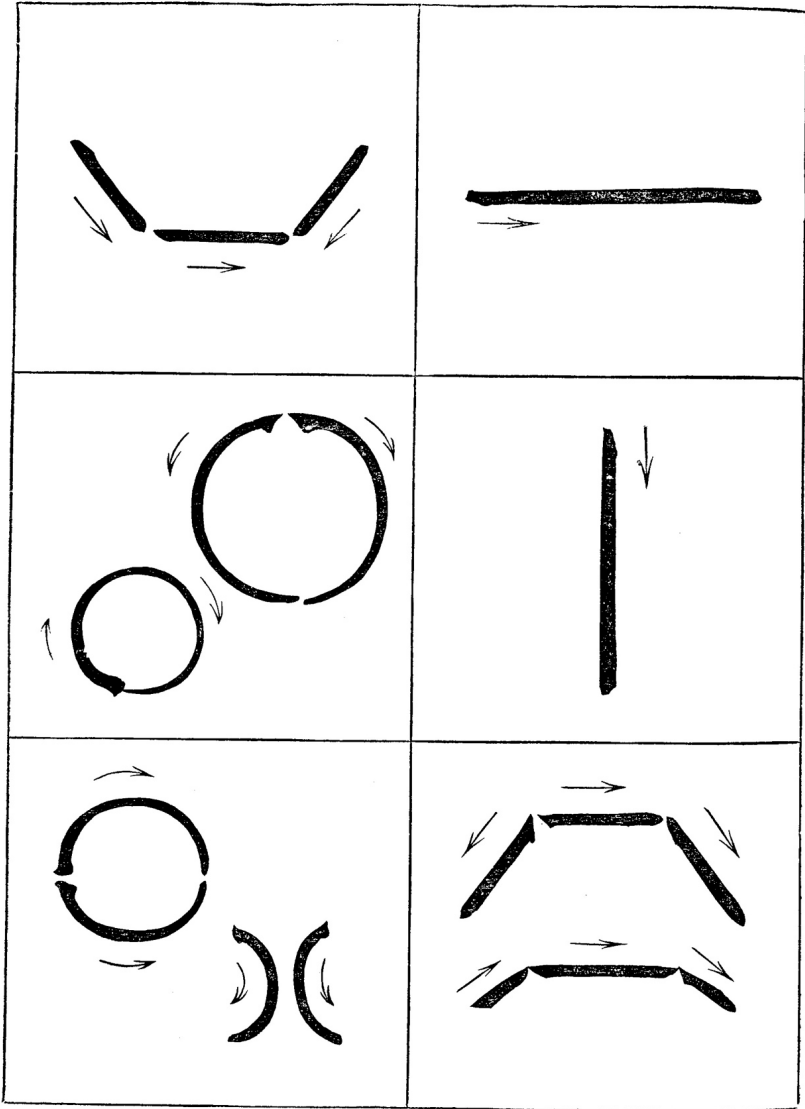
第 四 圖



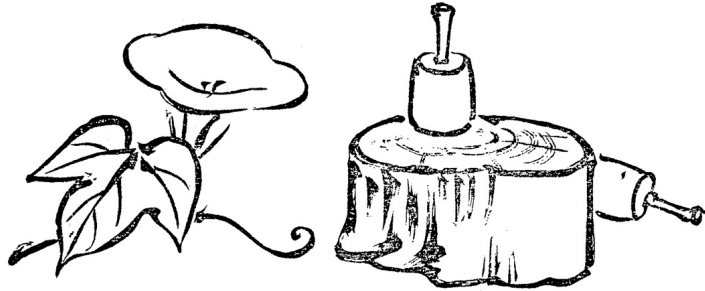
圖

ナリ、即左圖ニ掲ゲタルガ如シ、砧ニ於テ其大體及部分ニヨリ、線ノ細

圓形ヲ描クニ當テハ、上方ヨリ左右ニ分レテ  
 二回ノ筆ヲ用フルコトアリ、大圓ニ多シ、下方小  
 シク右ニ偏シタル處ヨリ始メ、一筆ヲ以テ描  
 キ了スル事アリ、小圓ニ多シ、以上ノ如キヲ普  
 通トシ、間々或ハ之ニ法ラザルモノアリ、是等  
 諸線一々ノ變化ヲ豫期シテ、標準ヲ示シ難シ、  
 線ノ大小ハ一定シ難シ、然レドモ同一ノ畫中  
 ニ於テハ凡テ法則アリ。



第 五 圖



大ヲ比較スベシ、又朝顔ノ圖ニ於テ、花ノ輪廓、葉ノ輪廓、及莖ニ比シテ精シキ部分ノ細大ヲ比較スル時ハ明瞭ナルベシ。

陽線及陰線。物體ノ光線反射ニヨリ、明暗二部ヲ生ズルハ明ナリ、少シク進歩シタル兒童ニハ、之レニ依テ斟酌スベキ、線ノ細大ヲ説明實施セシムベシ、普通左上方(或ハ約四十五度ト定ム)ヨリ光線ヲ受クルモノトシテ、其明部ハ細線ヲ用ヒ、暗部ハ大線ヲ用フルノ注意アルベキ事ナリ。

遠線及近線。遠キモノハ細線ヲ用ヒ、近キモノハ大線ヲ用フ、主、補、陰、陽、及遠近ノ線ヲ用フ

ル時ハ、簡易ナル描線ヲ用ヒテ、實況ラシク見スル事比較的多キノ便アリ。

鉛筆畫ニ於ケルガ如ク、毛筆畫ニ於テモ、手本及畫紙ノ方向ヲ轉換スルカ、或ハ線ノ方向ニヨリ、身體ヲ偏スルガ如キ弊、亦認ムル處ナリ、斯ノ如クスル時ハ、常ニ已レガ不便トスル處ノ方向ハ、運筆ノ練習ヲナス能ハズ、斯ノ如クシテ描キタル線ハ、實ニ趣味ヲキノミナラズ、他ノ描線ト調和セズ、且此間ニ於テ、畫大體ノ觀察ヲ等閑ニシテ、鈞合ヲ失フノ患アリ、且又、殊ニ必要ニシテ忘却シ難キ事、即實形ヲ描クテフ觀念ハ、一時消滅スルモノナリ。

以上ノ事ハ、濃淡彩色等ノ場合ニ於テモ亦必要ナリ。

### 濃淡。

圖畫ハ線、濃淡、色、等ヲ假リテ、平面上ニ實物ノ象ヲ現ハスモノナリ、蓋シ實物ナルモノニハ、必ズ特有ノ形體、及色彩ヲ具ヘザルハナシ、サレバ、圖畫ヲ以テ之ヲ寫シ現ハサントスルニハ、線ヲ假リ其ノ形體ノ境界ヲ劃シ、其形狀ヲ著シタル後、濃淡或ハ彩色ヲ以テ、遠近、高低、凹凸、陰陽、向背等ヲ現ハスモノニシテ、線ヲ以テ形體ヲ現ハスコトヲ充分ニ自得セシ後ニ於テ課スベキナリ。

墨ヲ用フルノ濃淡要領下ノ如シ、即(一)其物固有ノ濃淡、即光線反射ノ強弱ニ應ズルヲ要ス、即白キモノ、黄ナルモノハ淡ク、青キモノ、紫ナルモノハ之レニ比シテ濃キガ如シ、又(二)陰陽ノ程度ニ從フヲ要ス、即明部ハ淡ク、暗部ハ濃キガ如シ、(三)遠近ニヨツテ濃淡ヲ分ツヲ要ス、近キモノハ濃ク、遠キモノハ淡キガ如シ。

描線ノ時機ニ於テ、已ニ以上ノ點ニ注意シテ、其物ノ遠近、濃淡、明暗ニ應ジテ、線色ノ濃淡ヲ斟酌スベシ、即物體ト描線トノ間ニ於テ、調和ヲ

得ンガ爲メナリ。

平塗。前述ノ要領ニ應ジ、一定ノ濃度ヲ有スル墨汁ヲ或部面ニ平均ニ塗布スルヲ云フ。其法、充分水ト混和シテ、濃淡ノ差ナキモノヲ、餘裕アルベキ分量ニ製シ置キ、其染メントスル一隅ヨリ、平均ニ塗布シテ、漸次全部ニ及ボスモノトス、其部面少シク廣キ場合ニ於テハ、紙上最平均ニ水ヲ引キ、乾カザル中ニ、欲スル處ノモノヨリハ、少シク濃キ色ヲ以テ平塗ス、一圖中、同濃度ノ平塗ヲナスニ當ツテハ、或ハ水ヲ施シ、或ハ施ササル所アレバ、其濃度區々トナル、注意スベシ。

渲暈法。要領平塗ニ同ジ、而シテコノ渲暈ヲサシムルニハ、豫メ二本ノ筆ヲ要ス、一本ハ墨ヲ着ケ、他ノ一本ハ限取筆ニシテ、之ニハ少シモ墨ヲ着ケズ、毎ニ清淨ナル水ヲ含マセ、染リタル墨ヲ引キ延サシムルモノトス、廣キ部面ヲ渲暈サセンニハ、必ズ前ニ水ヲ布キ置カシメ

ザルベカラズ、水量ノ多カラザル様、少ナカラザル様、能ク其加減ニ注意セシムベシ、渲暈ハ濃キ所ヨリ着手シ、漸次淡キニ及ボスナリ、即先ヅ豫期ヨリハ少シク濃ク、且平均シタル墨汁ヲ送り、之ヲ一部ニ施シ別限筆ヲ水ニ浸シタルモノ(多量ニシテ滴ル、ガ如キ、或ハ少量ニシテ墨ヲ吸收シ去ルガ如キハ不可ナリ)ヲ以テ、之ヲ尙少シク廣キ部分ニ擴張シ、毫裡ニ吸收シタル墨分ヲ去リ、之ニ水ヲ含マシテ、又前ノ如クス、此ノ如ク反覆シテ全局面ニ及ボスナリ、此時ニ當テハ、濃淡ノ漸次ナルヲ欲ス。

渲暈ヲ施スニ内外アリ、即輪廓内ニ施スモノ、及其外方ニ施スモノナリ、外方ニ施ストハ、月ノ周圍、白キ花ノ周圍ニ施スガ如シ、斯ノ如キ時ニ於テハ、欲スルヨリハ淡キ墨ヲ用ヒ、大過ナカルベシ。

平塗法渲暈法ノ何レヲ問ハズ、未タ水分ノ去ラザルニ、其面上更ニ第

二ノ筆ヲ加フ事勿レ。

以上墨ノ濃淡ニ就テノ説明ハ、色彩ノ場合ニ於テモ亦同ジ、唯色ノ種類多キヲ以テ、成ルベク各別ノ皿、及筆ヲ要スルヲ以テ異リトス。

### 彩色。

兒童ヲシテ、彩色ニ就テ、大略ノ理解ヲナサシムル事ハ甚必要ナリ、彩色ノ判別力ハ、兒童ニアリテ甚幼稚ナルヲ見ル、即單一ナル原色ニ於テ、濃淡ノ程度ヲ識別スル能ハズ、朱色ト紅色トヲ混同スルガ如キ其常ナリ、教員タルモノ、之等ノ判斷力ヲ理解セシムル事ニ就キ、留意セザルベカラズ、色彩ノ判別比較、及調合ニ熟セシムルコトハ、美感ヲ養フ上ニ於テ、甚効果アルコトナリ。

小學校ニ於テハ、簡便ヲ主トスルヨリ、紅、藍、黃、朱、赭等、二三ノ種類ニテ足レリトナサミルベカラズ、故ニ此等數種ノモノヲ利用シテ、混合及配合ニヨリ起ル所ノ、種々ノ状態ニツキ、兒童ノ色彩上ノ識別力ヲ養フコトニ勉ムベシ、只線畫ヲ彩ルコトノミシ、遊戲ノ具トナサズ、調合ニヨツテ、實物ノ色ニ似ルヲ以テ主眼トナスベキナリ。

彩色ヲナサシムルハ、墨ノ濃淡ヲ了解シタル後トスル事ハ、普通ノ順序ナリ、而シテ赤、藍、黃等ノ如キ次第ヲ以テ、草色ヨリ漸次間色(混合色)ニ及ボサシムヘシ、此設色ニ當リテハ、勉メテ色ニ適合スル所ノ物體ヲ用フル事必要ナリ、少シク進歩シタル場合ニ於テハ、間色中ニ各單色相互ノ分量比例ニヨリ、種々ノ變化アルコトヲ知ラシムベシ、之ガ爲メ、例ヘバ黃藍ノ間色ナル草色ニハ、種々ノ階級アルコトヲ、嫩葉老葉等ヨリ知得セシメ、且之ニ一致シタル調合ヲ試マシムベシ。

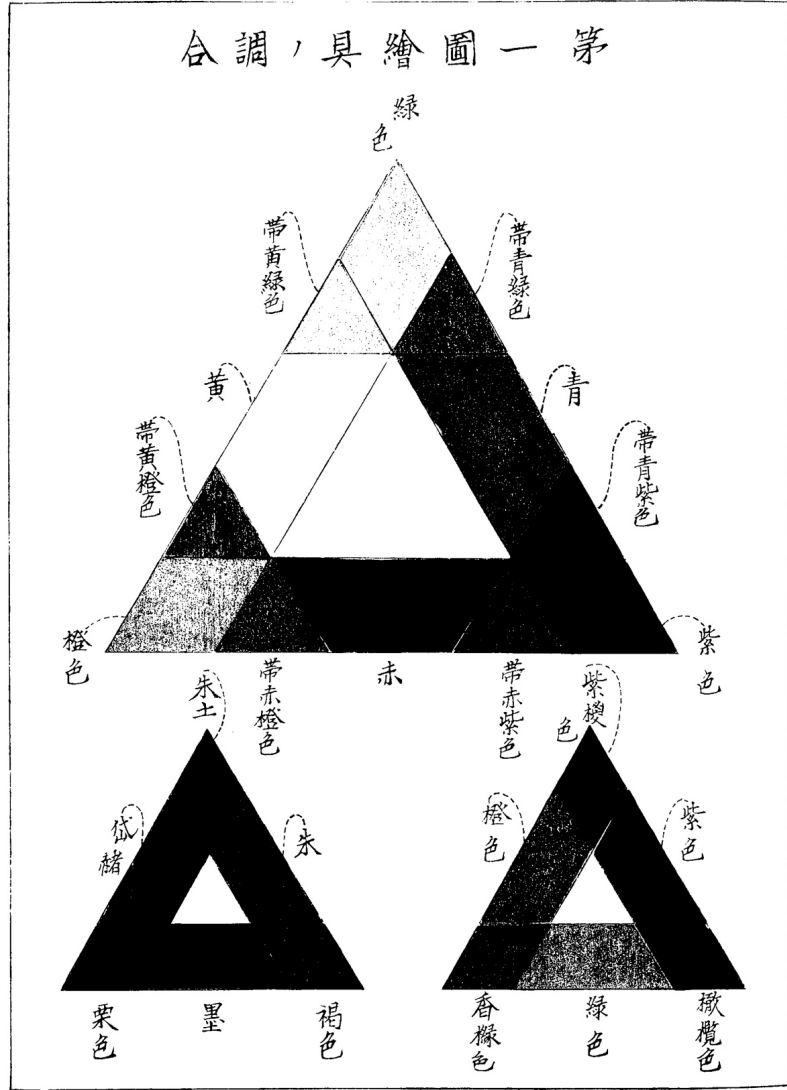
色ノ種類調合及配色。七色ハ大別シテ三原色トナスコトヲ得ベシ、赤(紅)、青(藍)、黃之レナリ、其混合ニヨリ、第二色ヲ得、即赤ト(青)藍トハ紫、赤

ト黄ハ樺、青藍ト黄ハ緑、更ニ之ヲ混合シテ第三色ヲ得、(調合ノ圖参照)  
 (附原色ノ黄ニハ雌黄ヲ用ヒ、赤ニハ洋紅ヲ用井、青ニハ藍ヲ用フルヲ  
 可トス)。

二色以上ノ排列ニ於テ、配合ノ良否ヲ生ズ、配合ニ二種アリ、同類ノ配  
 合ト、反對ノ配合ナリ、類ノ同ジキモノハ其配合安靜(落着ヨキ)ニシテ、  
 反對ノモノハ華麗(引立ツ)ナリ、大體左ノ如シ。

二原色ヲ含ムモノハ、餘色即他ノ殘ノ一原色ニ對シテハ華麗ナリ、綠  
 ト赤、藍ト樺、黄ト紫ノ如シ、同類ノモノハ互ニヨク調和ス、(即落着ク意)  
 即黄若クハ赤ノ樺ニ對スルガ如ク、黄藍ノ綠ニ對スルガ如シ。

赤ノ如キハ熱色、人ニ熱ク感ゼラルト云ヒ、藍ノ如キハ冷色、人ニ涼シ  
 ク感ゼラルト云フ、冷熱二色ノ用途ニ就テハ自ラ別アリ、夏ハ冷色  
 ナ用フレバ涼氣ヲ覺ヘ、冬ハ之ニ對シ熱色ヲ用フレバ暖ヲ覺ユル等ノ



事ナリ、然レモ、事高尚ニ涉ルヲ以テ、小學兒童ニハ理解シ難カルベシ。

### 帝國毛筆新畫帖ノ說明。

本畫帖ハ、小學校令施行規則第一章第八條ニ規定シタル要旨ニ基キ  
編纂セルモノニシテ、小學校ニ於ケル圖畫科ノ臨本ニ供スルヲ以テ  
目的トシタルモノナリ。

其材料ハ、兒童ガ日常經驗セル普通ノ形體ヨリ採擇セリ、即チ尋常科  
ニ於テハ、兒童ガ畫カント欲スル旺盛ナル動機ヲ利用センガ爲メ、特  
ニ思想材料ノ撰擇ニ重キヲ置キ、國語修身ト相關聯セシメ、又季節ヨ  
リ撰擇シ、高等科ニアリテハ、更ニ歴史、理科、地理等ニ關係セルモノヨ  
リ撰ミ、思想材料ニ加フルニ形式的材料ヲ以テシ、且美感ヲ養フノ點  
ニ於テハ幾多ノ注意ヲ用ヒタリ。

材料ノ排列ヲ季節ニ適セシメタルハ、對照ノ便多クシテ、實物ヲ精確

ニ觀察セシメンガ爲メナリ。

新畫帖ハ、分テ甲乙兩種トシ、甲種ハ尋常二學年ヨリ始メ、高等科ノ終リニ至リ、乙種ハ高等科ニ於テ始メテ圖畫ヲ課スルノ目的ニ供シ、第一學年ヨリ第四學年ニ至ル、兩種ヲ通ジテ各學年二冊ヲ配當ス、尋常科ニ在テハ各冊拾圖トシ、思想畫ヲ課スベキ餘地ヲ存シタリ、高等科ニ在テハ拾貳圖トス、各一週一圖ヲ課シ、殘餘ノ時間ヲ以テ、思想畫、幾何畫法等ノ時間ニ當ツベキナリ。

特殊専門的ナル筆意ノ趣味ハ、小學生徒ニ望ムベカラズ、故ニ簡潔ナル筆意ヲ用ヒ、兒童ノ修習ヲ容易ナラシメタリ。

### 寫生。

臨畫ノ價值ノ條ニ於テ、寫生ノ、圖畫ニ於テ最有効ナルヲ説ケリ、然レモ其實施ノ困難ハ蓋シ豫想ノ外ニアルベシ、即一般小學校ノ情況トシテ、圖畫ノ爲メニ特別ナル教室ト、其内容物トヲ設備スルコト能ハズ、同時多數ノ兒童ニ對シテ供給スベキ、寫生材料ヲ如何ニスベキカ、一室ノ衆兒童ヲシテ、該材料ニ就キ、公平ニシテ遺憾ナク觀察セシムベキ方法ヲ如何ニスベキカハ、實際ニ於テ免レ難キ困難ナルベシ、加フルニ僻陬ノ地等ニアリテハ、止ムヲ得ズ全ク圖畫ノ經驗ナキ教員ニシテ、之ガ授業ヲナスガ如キ有様ナレバ、寫生畫ヲ以テ、小學校ニ於ケル圖畫科ノ最モ主要ナルモノトシ、完全ニ教授ヲナシ、効果ヲ見ハサンコトハ、實際上ニ於テ容易ノ事ニアラザルベシ。

然レモ寫生畫ハ、圖畫科中最モ緊要ナルモノニシテ、考案畫ト共ニ圖畫科究極ノ目的ト謂フベク、實體ヲ誤リナク寫シ得ルノ能力ハ、養ヒ置カザルベカラザル處ナリ、コノ目的ヲ達センニハ、平常教授ニ注意セザルベカラズ、即實物ヲ精確ニ觀察セシムルコト、及ビ臨畫ト實體



トテ對照比較シ、臨畫ト寫生畫トノ聯絡ニ注意シ、コレニ應ズル目ト  
手トノ練習ヲ完全ニ發達セシムルハ、缺クベカラザルコトナリ、寫生  
材料ノ撰擇ハ、臨畫ノ材料ニ比シテ、其區域比較的自由ナルコトヲ得  
ベシ、然レモ寫生ヲ以テ已ニ臨畫ト相俟タシムルヲ以テ、臨畫ノ題目  
ト連絡ヲ維持スルコトハ、其目的ニ應ジタル所ノ良方法ト云フベシ、  
故ニ寫生時間ニ課スベキ材料ノ種類、及形狀ノ繁簡ハ、臨畫ノ標準ニ  
依ラザルベカラズ。

臨畫手本ヲ實物ニ對照セシムルコトハ、圖畫教授ノ初步ニ於テ必要  
ナルコトナリ、然レモ之等ノ程度ニ於テハ、未ダ完全ナル實物寫生ヲ  
強ヒ得ベキ時期ニアラズ、其時期ハ凡ソ高等一年以上ヲ適當トスベ  
キカ、然レモ、常ニ線面及單純ナル體形ニ就テ寫生セシムル事ハ、甚適  
切ナルコトトス。

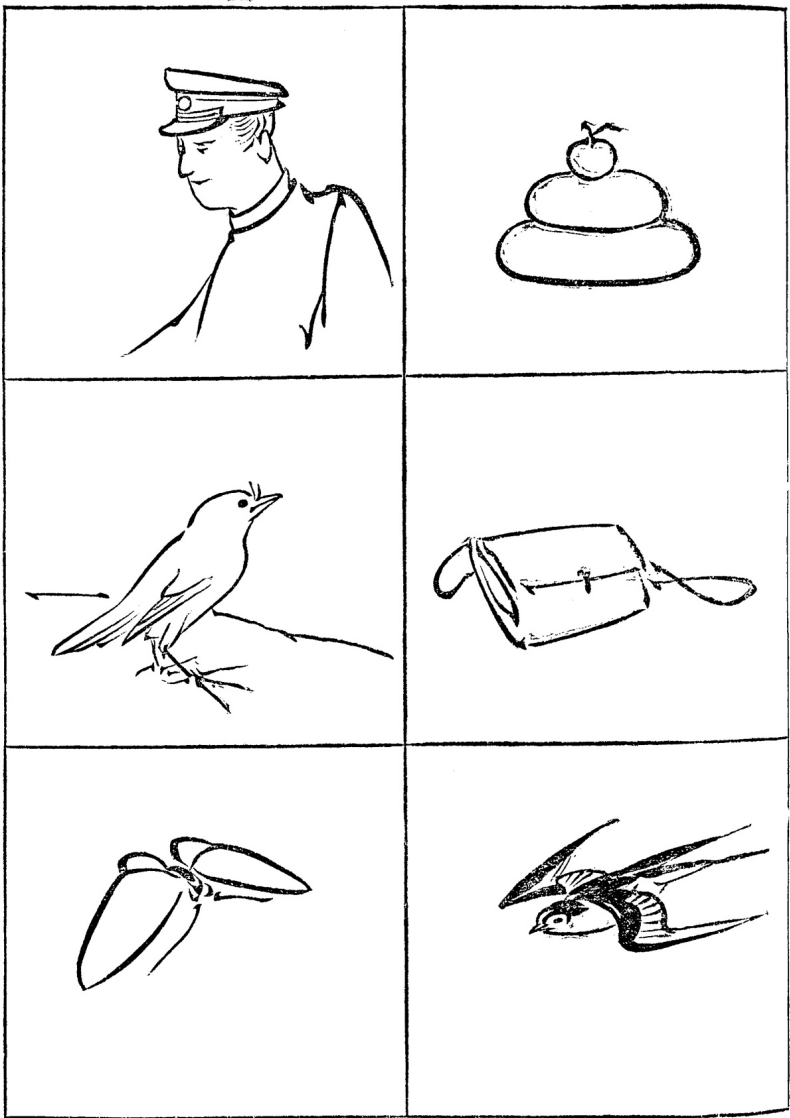
透視畫ノ法ハ、人ノ眼目ニ幻スル實體ノ影像ヲ究メタル畫法ニシテ、  
此理ヲ離レタル寫生圖ハ、凡テ虛偽ナルモノナリ、此法ハ甚複雑ニシ  
テ、中學生ト雖モ難ンズル所ナリ、故ニ圖畫教授ノ初步ニ於テ、之レガ  
注入ヲ試ムル事ハ効ナクシテ、幼稚ナル兒童ヲシテ、却テ迷ニ陥ラシ  
ムル弊アルモノトス、反テ工人ノ下圖等ニ於テハ、透視畫法ニ基カザ  
ル投影畫法的略圖ノ利益アルコト、往々ニシテ之アリ、然レモ高等科  
兒童教授ニ於テ、透視畫ノ原理、即遠キモノハ近キモノヨリ其割合小  
ニ見ユルコト、漸次小ニ見ユルコト、眼ノ位置遠近ニヨリ、同一物體ト  
雖モ種々ノ變形ヲナスコト、又視線ニ平行スル線ノ一點ニ集合スル  
ガ如ク見ユル等ノ事ニツキ最簡明ナル説明、及要求ヲナスコトハ、甚  
有益ナルコトナルベシ。

### 寫生ノ實施。

兒童ヲシテ寫生ヲ實施セシムルニツキ、往々等閑ニ附セラル、處ノ  
 コトハ、畫面ト畫トノ大小位置ノ關係ナリ、コレ頗ル重要ナルコトニ  
 シテ、其影響スル處小ニアラズ、即一定ノ範圍内ニ於テ畫ク所ノ内容  
 物ノ大小位置ノ關係ハ、良好ナル工夫新案ノ基礎ノ一ナレバナリ。  
 落筆、最初ノ不注意ニ原因シタル畫圖ノ偏倚ハ、作業ノ内ニ於テ之  
 ナ恢復スル事難シ、コレ臨畫ニ於テモ常ニ見ル所ナレドモ、寫生ニ在  
 リテハ殊ニ甚シトス。

普通ノ場合ニ在テハ、畫面ノ上方ハ下方ニ比較シテ少シク餘裕ノ多  
 キヲ欲ス、蓋シ物體ノ少シク下方ニ就クハ、一ハ安靜不動ノ念ヲ起サ  
 シムルト、一ツハ上方ノ輕快ナルヲ欲スル、看者自身ノ感情ニ基ケリ、  
 然レモ飛鳥輕氣球ノ如キニ在ツテハ、其自然ノ性質上、上方ニ偏スル  
 ナ至當トスルガ如キアリ、一々枚舉シ難シ、宜シク類推スベシ、左右相

第七圖



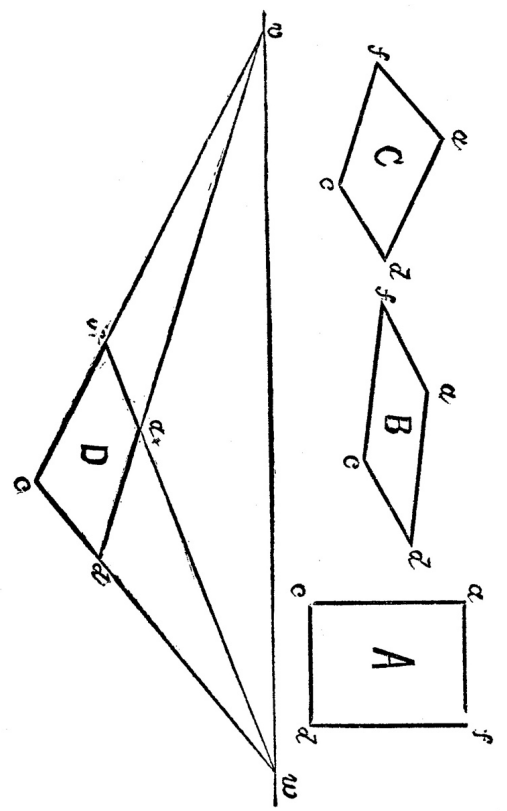
稱フルガ如キ形ヲ有スル物體ハ、畫圖ノ左右ニ偏セザル中央ニアル  
 ナ定規トシ、其主位一方ニ偏シテ、一部他方ニ岐出スルガ如キ物體ハ、  
 岐部ノ方向ニ餘地ヲ多クスルコト多シトス、(第七圖)其他左右ニ向ヘ  
 ル人像ハ、其左方ヲ廣クスルガ如キ姿勢形狀ニヨリ、動物ト植物トヲ  
 擇バズ、位置ノ斟酌ヲ施スヲ要ス。

今極メテ簡單ナル物體ニヨレル、寫生作業ニ就テ注意スル所アラ  
 トス。

寫生材料石盤。第八圖Aハ、石盤ノ實形圖ニシテ、甚ダ明瞭ナリ、然レ  
 凡畫トシテハ甚抽象ニ過ギ、趣味ノ乏シキヲ覺ユ、且石盤ト其置カレ  
 タル場所トノ間ノ關係ハ全ク不明ナリ、サレド初年即初步教授ニ於  
 テ適當ノモノナリ、今若シ石盤ヲ平面上ニ置キ、少シク旁ナル方向ヨ  
 リ之レヲ寫ス時ハB圖ノ如キモノヲ得ベシ、B圖ハ前圖ニ比シテ甚

ダ自然的ナリ、此圖ニ於テa dハf cニ等シク、a fハc dニ等シキ  
 モノトス、然ルニ兒童ノ往々陥リ易キ誤謬ハ、C圖ノ如キモノナリ、即  
 a dハf cヨリ長ク、a fハc dヨリ長キ事ナリ、此誤謬ハ臨畫ニ於

第八圖



ヲモ屢々發見スル事ナレバ嚴重ニ修正セザルベカラズ。

D 圖ニ於テ、 $f$ 、 $a$ 、 $c$ 、 $d$ ノ實際平行ナル二線ハ一點ニ會シ、他ノ二線モ同高ナル他ノ一點ニ會ス、石板ノ目ニ映ズル實際ノ形狀ハ、實ニD 圖ノ如クナルベシ。

圖畫教授ノ初步ニ於テハ、B 圖ヲ以テ満足セザル能ハズ、C 圖ノ如キハ兒童ヲシテ會得セシムル事容易ナリ、然レモD 圖ノ如キモノヲ説明スルノ時機ハ、考慮ノ後タルベシ。

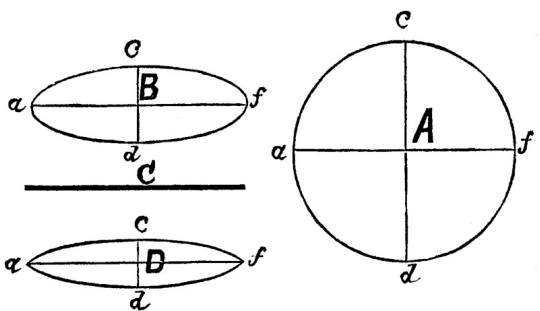
D 圖ヲ説明スルニ當リ、相對セル二對ノ平線ガ、二個ノ點ニ集合スル事ハ、理論上明確ナル事實トス、然レモ實際ノ上ニ於テハ、更ニ簡略ナル説明法ヲ取ルヲ可トス、即Bノ如キ位置ニアル石盤ニ就テ、眼ニ最モ近キモノハ $f$ 、 $c$ ニシテ $d$ 、 $c$ 之ニ次ギ $a$ 、 $f$ 之ニ次グ、最遠キモノハ $a$ 、 $d$ ナルベシ、然ルニ數多ノ實驗ニヨリ兒童ヲ納得モシメ得ベキコ

ト、即凡物ハ目ヲ遠カルニ從ヒ、愈其長サヲ減ズルト云フノ理ニヨリ、 $c$ 、 $d$ ヨリ眼ニ遠キ $a$ 、 $f$ ハ $c$ 、 $d$ ヨリ短カルベク $f$ 、 $c$ ヨリ甚遠キ $a$ 、 $d$ ハ、 $f$ 、 $c$ ヨリ甚短カルベシ、此理ニヨリ斟酌スル時ハ、其結果Dニ近ク且Dノ意ヲ得ルニ近カ、ルベキカ。

寫生材料圓盆。此場合ニ於テ、 $a$ 、 $f$ 、 $c$ 、 $d$ ノ如キ數多ノ直徑相等シキ事ヲ説明スベシ、A 圖ハ盆ノ實形ナリ、尋常科ノ初步ニ於テハ斯ノ如ク描カシム、今之ヲ斜ニ見ルキハB 圖ヲ得ベシ、此時ニ於テ $a$ 、 $f$ ノ如キハAノ場合ト變化ナキモ、 $d$ 、 $c$ ハ著シク其長ヲ短縮シテ見ユベキ事ヲ會得セシムベク、且二線ニヨリ分タル楕圓ノ四部ハ、弧形皆相等シキコトヲ知ラシムベシ、次ニ正側方ヨリ見ル時ハ、Bノ $a$ 、 $f$ ニ等シキ $c$ ノ如ク直線狀ニ見ユル事ヲ説明スルモ亦必要ナリ。

此場合ニ於ケル重ナル誤謬ハ、D 圖ノ如キモノナリ、即楕圓ノ兩端、 $a$

圖 九 第

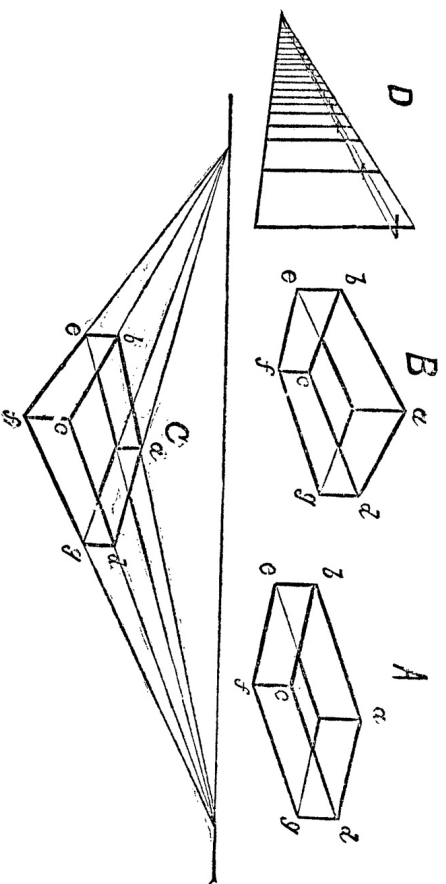


fノ點ニ於テ著シク稜ヲナスニアリ、此誤謬ハ短軸cdガ愈其長サヲ減ズル場合ニ在テ、其過失ノ輕々ニ看過サル、事愈多シトナス。以上ノ如キ平面的ナル材料ノ寫生ニ當テ生ズル誤謬ハ、一々枚舉シ難カルベシ、要ハ唯教員考察ノ周到ニ依頼スルノミ。

寫生材料箱。此時ニ於テ必要ナル說示ヲナス、就中該箱ノ表面ノ廣サ深サ等ノ説明ヲナス事必要ナリ。

該箱ヲ或ル平面上ニ安置シテ、少シク斜方ヨリ寫生スル時ハ、Aノ如キ形ヲ得ベシ、其abc dナル表面ヲ描クノ法ハ、第八圖bノ要領ニ異ナラズ、bcdノ三點ヨリ其箱固有ノ深サヲ取り、連絡セシメテA

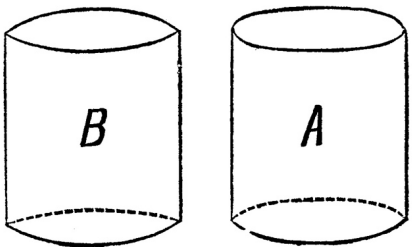
圖 十 第



圖ヲ完成ス、B圖ハ兒童ノ陥リ易キ誤謬ヲ示シタルモノナリ、即AB CDノ面ノ描法ノ過失ハ、第八圖Cノ場合モ同轍ニシテ、他ノbe d g二線ノcfヨリ長キハ、亦類似ノ過失ナリトス、C圖ハ完全ナルモノトス。

D 圖ハ稍高級ノ兒童ニ示スベキ、進歩シタル合理ノ畫圖ナリ、今道路ノ一側ニ併列スル電柱ノ、目ヲ遠ザカルニ從テ、各柱間ノ間隔漸次狹少トナルノ場合ニ、第一柱ト第三柱トノ中間ニアルベキ、第二柱ガ著

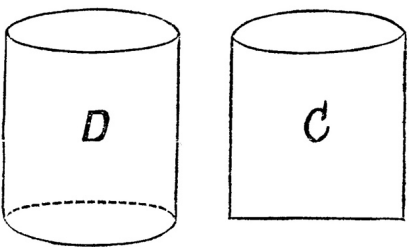
圖一十第



シク第三柱ニ近キガ如ク、目ニ映ズル事Dノ如キ引證ニヨリ、箱側面ノ中央ニ位置スル處ノ銳等ノ如キモ、ユノ理ニヨリテ類推スル事容易ナリ。寫生材料筆立。必要ナル説明ノ後、少シク上方ヨリ見タル筆立ヲ寫生セシム。正シク上下ニ相對セル等形ノ二橢圓、及二切線ヨリ成レル第十一圖Aハ畫學教授ノ初歩ニ於テハ満足スベキ圖形ナリ。

第八圖Dニ於ケル誤謬ヲ再現シタルモノハB圖ナリトス。

圖二十第

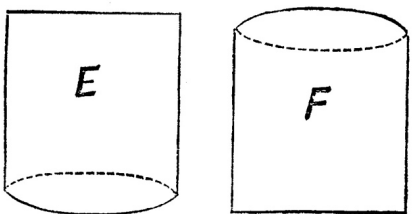


C圖ハAノ如ク畫ク可キ底面ヲ、直線形ニ畫キタルモノニシテ、此誤謬ノ屢發見サル、事ハ、實驗者ノ固ク知ル所ナリ。

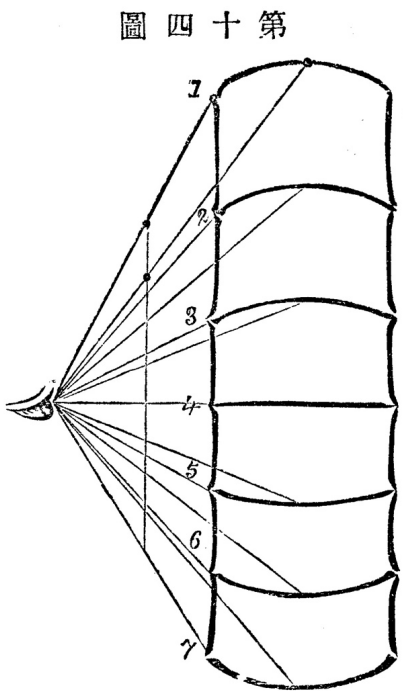
D圖ハ正シキ視察ニ因レル合理ノ寫法ナリ、苟モ眼ノ位置ヲ移動セシムル事ナク、筆立ヲ視察スルキハ、頂面ハ比較的側方ヨリ見ルモ、底面(假ニ見透シタルモノトシテ)ハ之ニ比シ上方ヨリ見下スヲ以テ、底面曲線ノ直視シ得ル部分ハ、D圖ノ如キモノナラザルベカラズ。

E及Fハ第八圖Cノ理ニシテ、正側面ヨリ頂面ヲ見ルキ、頂面ハ直線トナリ、底面ヲ見遣リテ橢圓ニ

圖三十第



畫ク事至當ナルベク、Fハ底面ノ側方平面ニ視點ヲ設ケシ場合ニシテ下ヨリ頂面ノ裏ヲ窺フ如キ場合ナリ、二圖共ニ有理ナレド、斯ノ如キ奇異ノ圖形ハ寧ろ避クルヲ至當トナス。



圖四十第

形ノ度益甚シク、5 6 7 節ハ上方ニ向テ變形ヲナシ、且下方ニ赴クニ

以上ノ理ヲ總合シタル說明ニハ、節ノ連續シタル太キ竹筒ヲ用フルヲ可トス。G圖4節ノ正側方ヨリ竹筒ヲ見ルトキハ、4ノ節ハ直線狀ヲナシ、3 2 1ノ節ハ下方ニ向テ變形ヲナシ、且上方ニ赴クニ從テ其變

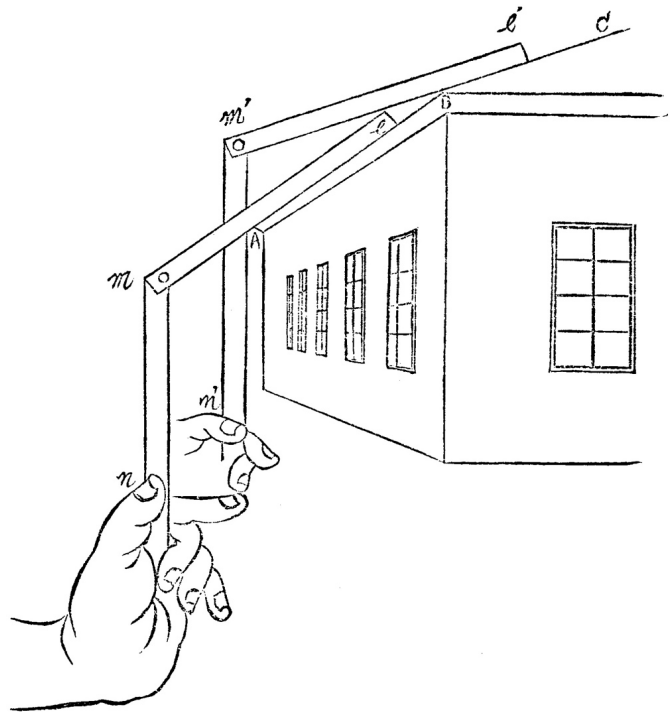
從テ其度愈甚シキヲ見ルベシ。

今障子、或ハ數多ノ板棚ヲ有スル書架ノ如キモノニヨリ、第拾圖Gノ理ヲ擴張スルキハ、建造物等ノ進歩シタル寫生ノ基礎トナルヲ明ナリ。

凡透視畫法ノ意味ヲ加ヘザル畫法ヲ默許スル場合、(第八圖B第九圖A第十圖A)ニ於テハ、少シク支障ヲキニアラズト雖モ、寫生ヲ實施スル場合ニ於テ、視點即目ノ位置ヲ移動スルヲ嚴禁スベシ、之ガ爲メ特ニ簡明ナル引例ニヨリ、兒童ヲシテ充分會得セシムルヲ要ス。

左ニ示セル處ハ、建築等ノ畫方兼テ一般器物等ノ畫法ニ利益スル處多カルベシ、即二個ノ堅キ紙片、板片等ヲ一端ニ於テ連綴シ、開閉自在ナラシム、然シテ  $m$   $n$  板ヲ垂直ニ置キ、 $m$   $e$  板ヲ建築物ノ軒端  $AB$  ニ一致セシム、此時  $m$   $n$  ニ對スル、 $m$   $e$  ノ傾斜ハ畫面ニ顯ルベキ軒端ノ

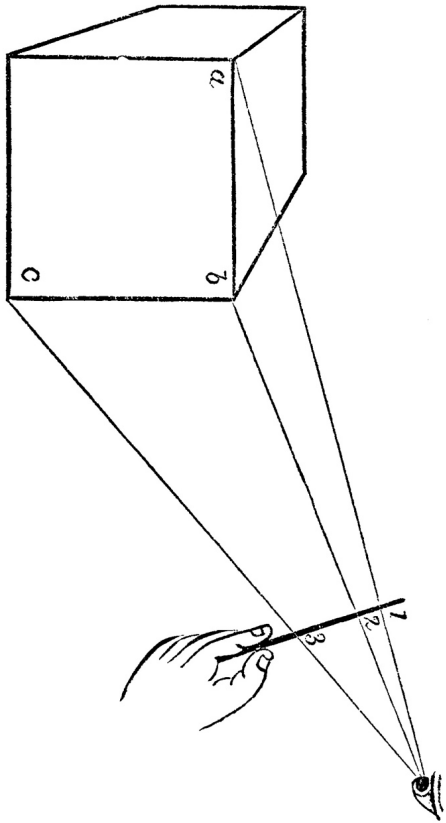
圖 五 十 第



又寫生ニ當リ、實物各部ノ長サハ其線ノ傾斜ニ從テ、其眼ニ映ズル短

傾斜ナリ、次ニ  $m e$  ナ  
 $m' e'$  ノ位置ニ動カシ  
 $b c$  ナル屋根ノ勾配  
 ト等シカラシムルキ  
 ハ  $m' e'$  ガ  $m' n'$  ニ對ス  
 ル傾斜ハ屋根ノ線ノ  
 畫面ニ顯ルベキ傾斜  
 ナリ、器物等ニ應用セ  
 バ効用少カラザルベ  
 シ、日常嬉遊ノ間ニ於  
 テモ試マシムベシ。

圖 六 十 第



縮ノ度定マリナキモノナリ、故ニ經驗少キモノハ其實際ノ長短ノ感  
 念ヨリ眼ノ觀測ニ誤差ヲ生シ易キモノナリ、之ヲ矯正スルハ鉛筆等  
 ノ小杆ニヨリ、目ヨリ一定ノ距離ニ於テ目ニ映ズル彼此ノ長短ノ比  
 例ヲ測量スルヲテ日常屢試マシムルニアリ、即第十六圖ノ如シ、即試



ミニ一個ノ箱ヲ測ラントスルニ線  $a$   $b$   $c$   $d$  トハ實長相等トスルニ眼ニ對シテハ傾斜ニヨリテ  $a$   $b$   $c$   $d$  トノ眼ニ映ズル長サノ比ハ 1 2 ト 2 3 ナルガ如シ。

### 思想畫

思想畫ヲ巧ニスルハ臨畫寫生ノ秩序アル教授ノ結果ナリ、實ニ精確ナル觀察ニヨリ、把持シタルモノヲ表出スル方法ノ整ヘルニ至テ、圖畫ノ目的ハ其大部分ヲ達シタルモノナリ。

考案畫、聽畫、記臆畫ハ、思想畫中ノ種類ナリ、然レトモ聽畫、記臆畫ハ印象精粗ノ狀態ノ、表出方法ノ適否等ヲ驗スル臨時ノ方便ニシテ、其內容考案ト同ジキヲ以テ、主トシテ考案ニ就テ述ベントス、思想畫ニ於テハ重キヲ考案畫ニ置クヲ可トス。

### 考案畫(新案トモ云フ)

考案ナル文字ハ、思想幼稚ナル兒童ニ對シ、甚困難ナルガ如ク感ゼラル、實ニ系統ナク變化多キ考案ハ、教授上甚困難ナル問題ナリ、然レドモ、之ニ用フル若干ノ用意ヲ以テスル時ハ、教授ノ困難ニ比シテ、其効果更ニ大ナルモノトス。

普通教育ニ於テ、圖畫ハ科學的基礎ノ上ニ置カザルベカラザルモノナリ、即物理的要求ヲ具備セザルガ如キハ、最忌ムベキ事タラズンバアラズ、臨畫及寫生畫ニ於テハ、之ニ對スル教師ノ懸念比較的少カルベキモ、考案ニ於テハ注意ヲ要スルコト殊ニ多シ。

新奇ナル圖樣ニシテ、主旨ノ明瞭ナラザルモノ、即物ヲ畫テ物ラシキ要點ノ一目著明ナラザルガ如キハ、良畫ト雖モ、稱揚シテ一般兒童ニ示スコトアルベカラズ。

凡ソ一般ノ圖畫(寧ろ美術)ガ適有スル美妙ノ原則ハ、多樣多趣ナレバ、

之ヲ網羅スル處ノ原則ヲ述ブル事ハ、到底至難ノ業トナサザルベカラズ、然レモ主要ナルモノトシテ、一般ノ許ス處ハ即左ノ諸件ナリ。

(一)統一(又ハ一致) 統一トハ全體ヲ組織スル上ニ就テ、其各部互ニ緊切ナル關係及結合トヲ維持シ、ヨシ其一部分タリトモ不必要ナル處ナキノ謂ナリ、即言ヲ換テ云ヘバ、全體ノ爲メ部分アリ、部分ヲ去リテハ全體ノ崩壞ヲナス如キヲ云フ、一定ノ目的ヲ有スル事ナクシテ、徒ラニ無用ノ線、無用ノ物ヲ羅列スル如キハ、統一ヲ害ス、或圖ヲ二分シテ二個ノ圖トナス如キハ、統一ヲ失ヘルノ例證ナリ。

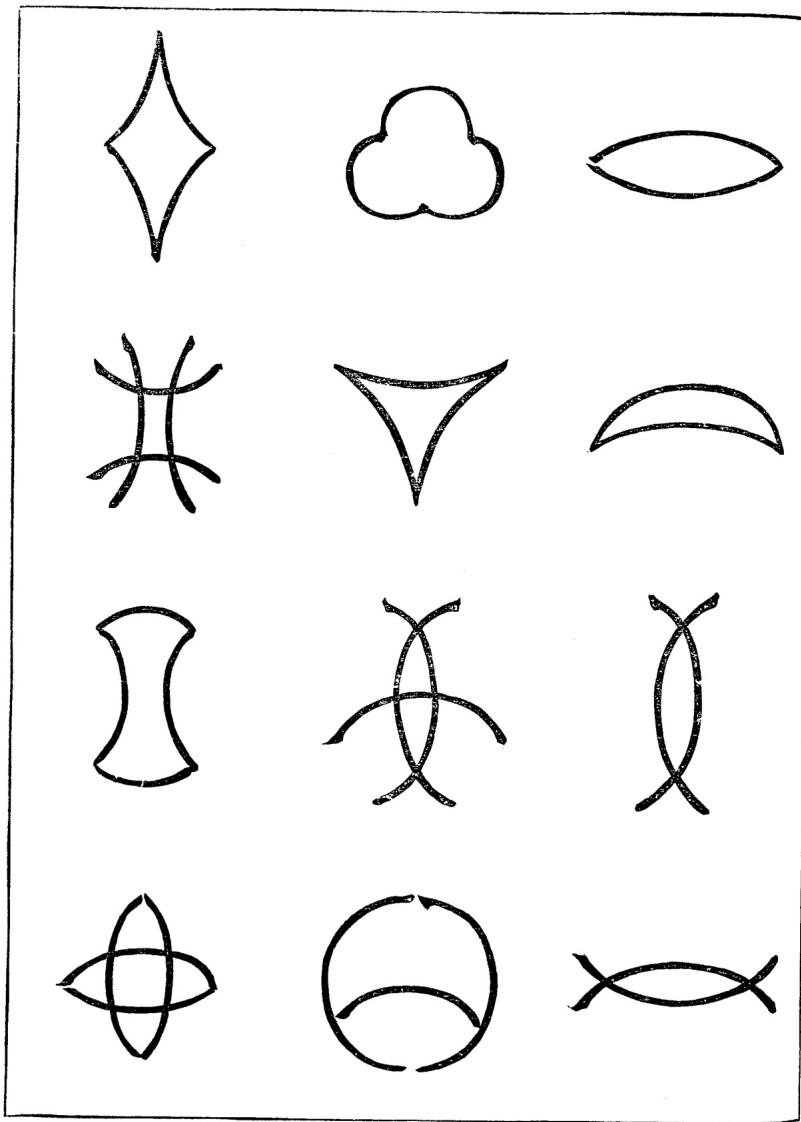
(二)比例 比例トハ形狀ノ大小、長短、遠近ノ位置、等實際ノ狀態ニ應ジ適當ナル割合ヲ保持スルヲ云フ、比例ノ過失ハ、時ニ容易ニ發見サル、モノナレドモ、毛筆畫ニ於テハ、大體部分ニ應ジ、描線ノ巨細マデモ注意スベシ。

(三)均齊 均齊トハ左右權衡ヲ得テ、大體相平均スルヲ云フ、必シモ左右ノ形狀面積ノ大小マデ相等シクセヨトニアラズ、兩部相平均シテ、不安ノ狀ナキヲモ云フ。

(四)變化 變化トハ各部ノ物質、大小、位置、形狀等ノ關係、單調ナラザルヲ云フ、單調ナルトキハ趣味從テ索寞タルモノナリ、即異種ノ材料ヲ配合スルガ如キ、物ニ大小アル如キ、位置ニ遠近アルガ如シ、然レモ突飛ナル變化ヲ求メテ調和ヲ失ヘルガ如キ事アルベカラズ、其間又統一アルベキ事尙歌曲ノ如シ。

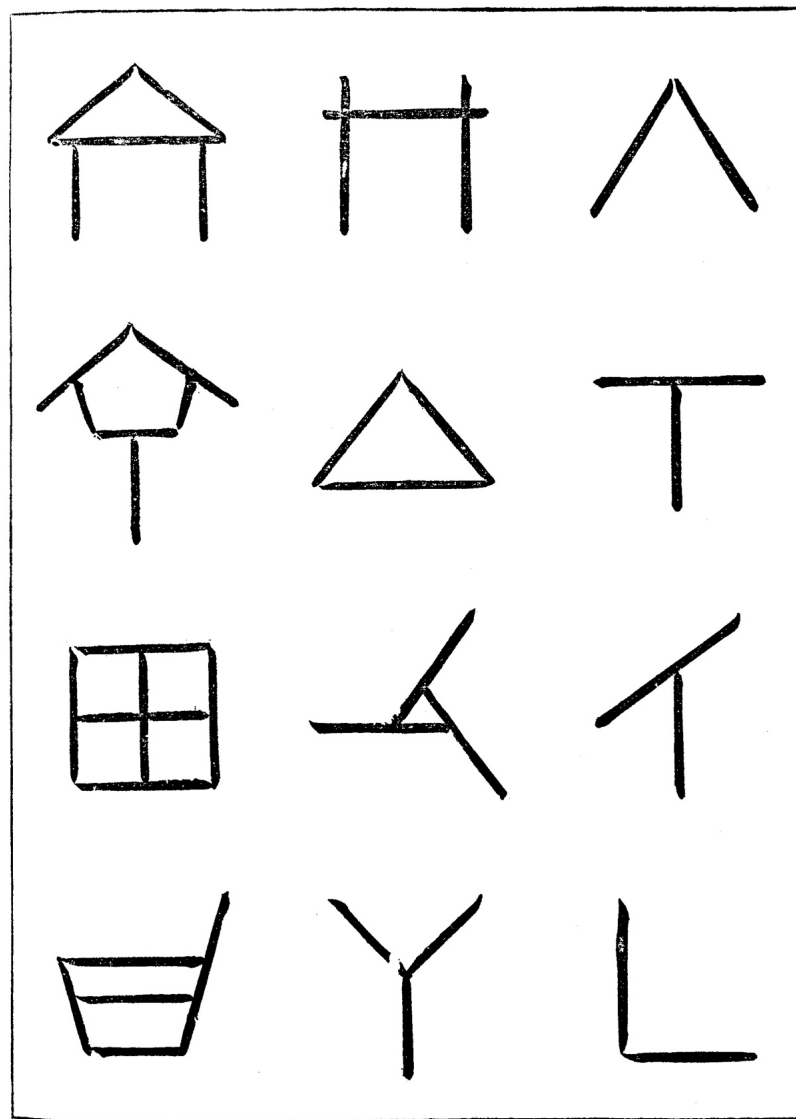
以上ノ如キ事ハ批評ノ基礎トナルモノニシテ、一見甚高尚ナルガ如シ、然レドモ簡易ナル舉例ニヨリ、其大體ヲ會得セシムルハ、甚困難ノ事トナサズ、教員タルモノ、兒童ノ製作ニ對シ、自己カ感想ヲ以テ漫然彼ハ良シ此ハ惡シナドノ外、兒童ニ指教ヲ與フル事ナキハ道ヲ得タ

圖 八 十 第



六十三

圖 七 十 第



六十二

リトナスベカラズ、實ニ美ノ内容ガ有スル一般ノ法則ヲ納得セシムル事ナクシテ、散漫無統一ナルキハ、永ク兒童ヲシテ修正ノ岐路ニ彷徨セシムルニ至ル、宜シク其缺點ノ輕重ニヨリ、先後ヲ考へ、自他ノ良否ヲ鑑別スルノ力ヲ養ハシムヘシ。

### 工夫畫。

工夫畫ハ考按畫ノ内ニ屬シ、分テ二種トナス、分解工夫畫、及結合工夫畫之ナリ、凡ソ工夫畫ニ於テハ或ハ整正ナル器具花葉ヲ工夫セシメ、或ハ紋樣等ヲ工夫セシム、前者ハ趣味多ク、後者ハ美ノ諸原素ヲ理解スルニ便ナリ、共ニ曲直兩線ヨリ成ル諸角諸形ヲ結合或ハ分解スルヲ本旨トス。

### 結合工夫畫。

臨畫等ニ於テ、略直線ノ描法ニ熟シタル時、二個以上ノ直線ヲ與ヘテ、諸種ノ方向ニ於ケル工夫畫ヲ試マシメ、更ニ進ンデハ、曲線及直線ノ結合ヲ課スベシ、其例各二三ヲ擧グ、第拾參圖ハ直線ノ結合ヨリ成ル、第拾四圖ハ曲線ヲ結合セシ例ナリ。

### 分解工夫畫。

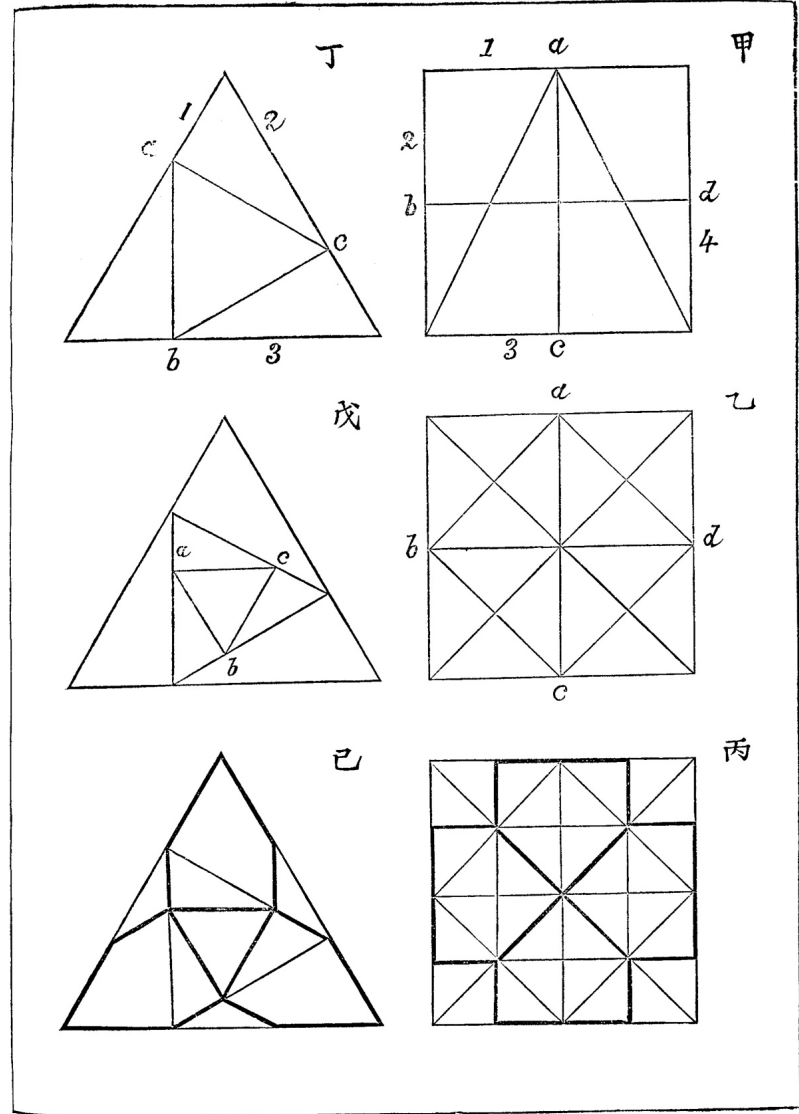
結合工夫畫ノ後ニ於テ、分解工夫畫ヲ課スルヲ要ス。分解工夫畫トハ或形分ノ點ヲ連結シ、又不必要ナル諸線ヲ消去ル等ノ方法ニ依リ、諸形ヲ案出スルノ法ナリ、其例左ノ如シ。

正方形ニヨリ數多ノ形ヲ案出ス、(甲、乙、丙)。

(一)、四點ヲ定メ、1 2 3 4ノ順序ニヨリ、正方形ヲ組立テ、必要ナル説明及問答ヲナシ、次ニ各邊ノ二等分點ヲ取り、之ニ就テ説明問答ヲナス事前ノ如シ、(以下倣之)ユ、ニ於テ  $a$   $b$   $c$   $d$ ヲ連ヌル事圖ノ如シ。

(二)、(一)ノ法ニ基キ正方形及  $a$  分點ヲ作ラシム、 $a$   $t$   $c$   $t$ ノ兩端ヲ連ネ

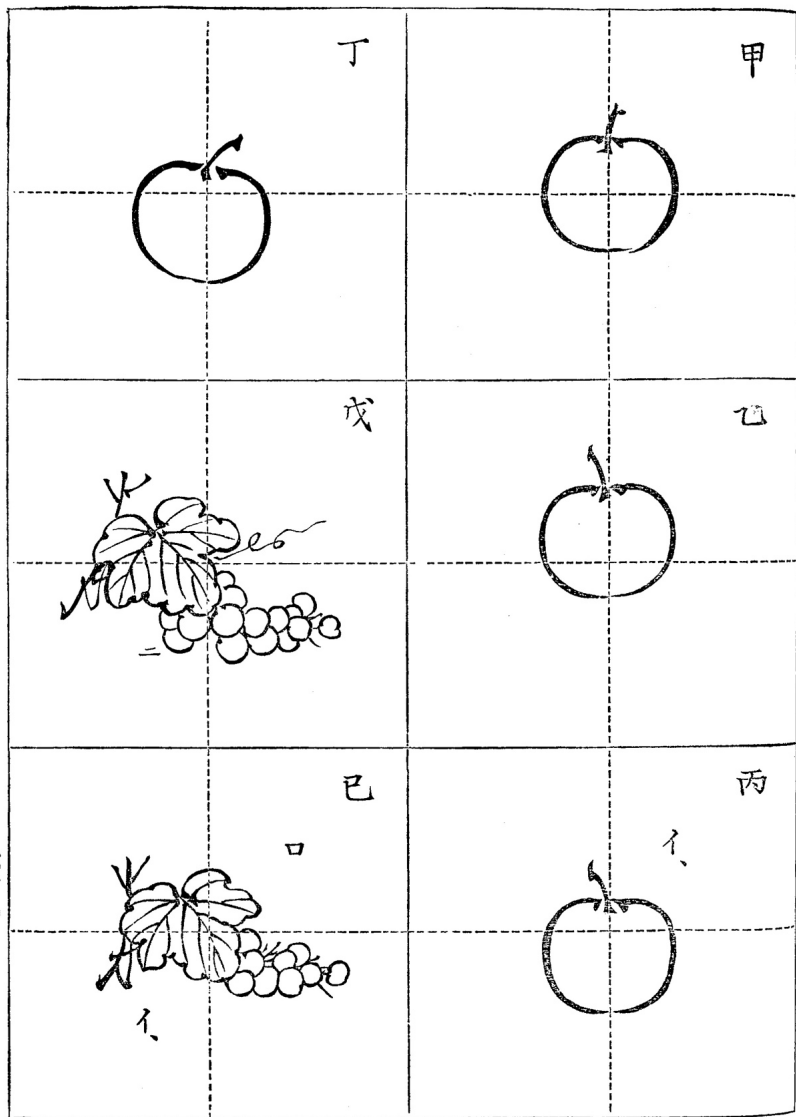
圖 九 十 第



シム。

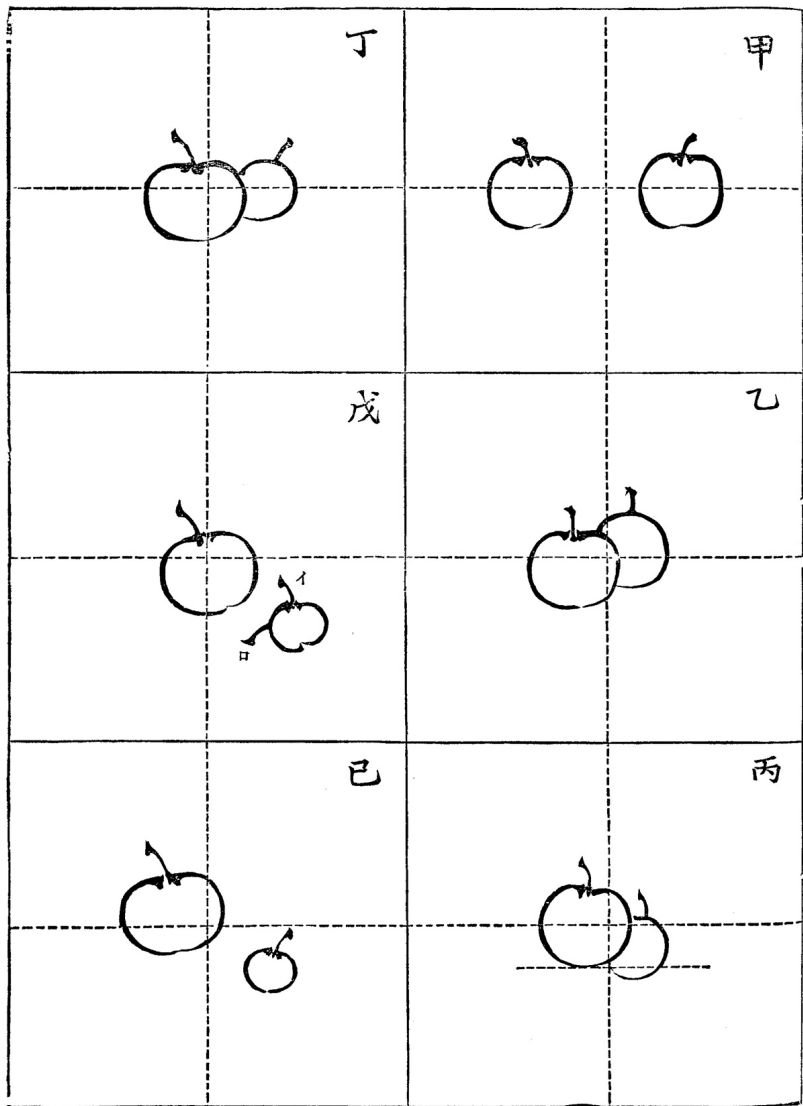
- (三)前法ニヨリ正方形ヲ作ラシメ、相隣レル分點ヲ連結セシム。
  - (四)前法ニヨリ、正方形及其内容正方形ヲ作り、外正方形ノ對角線ヲ作ラシム。
  - (五)前圖ノ對角線ト會シテ生ジタル内容正方形邊上ノ二等分點ヲ順次連結シテ小ナル正方形ヲ得。
  - (六)小ナル正方形ノ各邊兩端ヲ延長シテ、最大正方形ノ邊ト會セシメ、方眼面(碁盤ノ目)ヲ得。
  - (七)以上作業ノ跡ヨリ、或線ヲ消シ去リ第二十一圖ヲ得。
- 三角形ニヨリ數多ノ形ヲ案出ス。
- (一)三點ヨリ正三角形ヲ作ル、要領前ニ準ズ、而シテ各邊三等分點  $a$   $b$   $c$  ノ如キ位置ヲ撰ミ之ヲ連結ス。(丁圖)

圖 十 二 第



(二)前圖内容三角形内更ニ同一方法ヲ以テ、小正三角形ヲ内容ス。(戊圖)  
 (三)(二)ノ小正三角形ノ角點ト最大正三角形ノ邊ノ他ノ三等分點トヲ  
 連結シ、或線ヲ消シ去リ已圖ヲ得。  
 工夫畫ノ初歩ハ大體上述ノ如シ、曲線ヲ以テ任意工夫ヲ始ムベシ、之  
 ニ直線ヲ混ズレバ更ニ良工夫畫ヲ得ベシ。  
 圖樣ノ構設。  
 臨畫寫生ノ應用圖及考案圖ヲ構成スル要件ニ就テ、平易ナルモノヲ  
 述ベン。  
 第二十圖甲 甲ハ梨果ノ中心畫面ノ中央ニアルモノ、アマリ端正ニ  
 失シテ趣味ナシ。  
 乙 甲ノ稍上方ニアルモノ、上方ノ狹隘ナル爲メ、不快ノ念ヲ生ズル  
 モノ。

圖 一 十 二 第



七十一

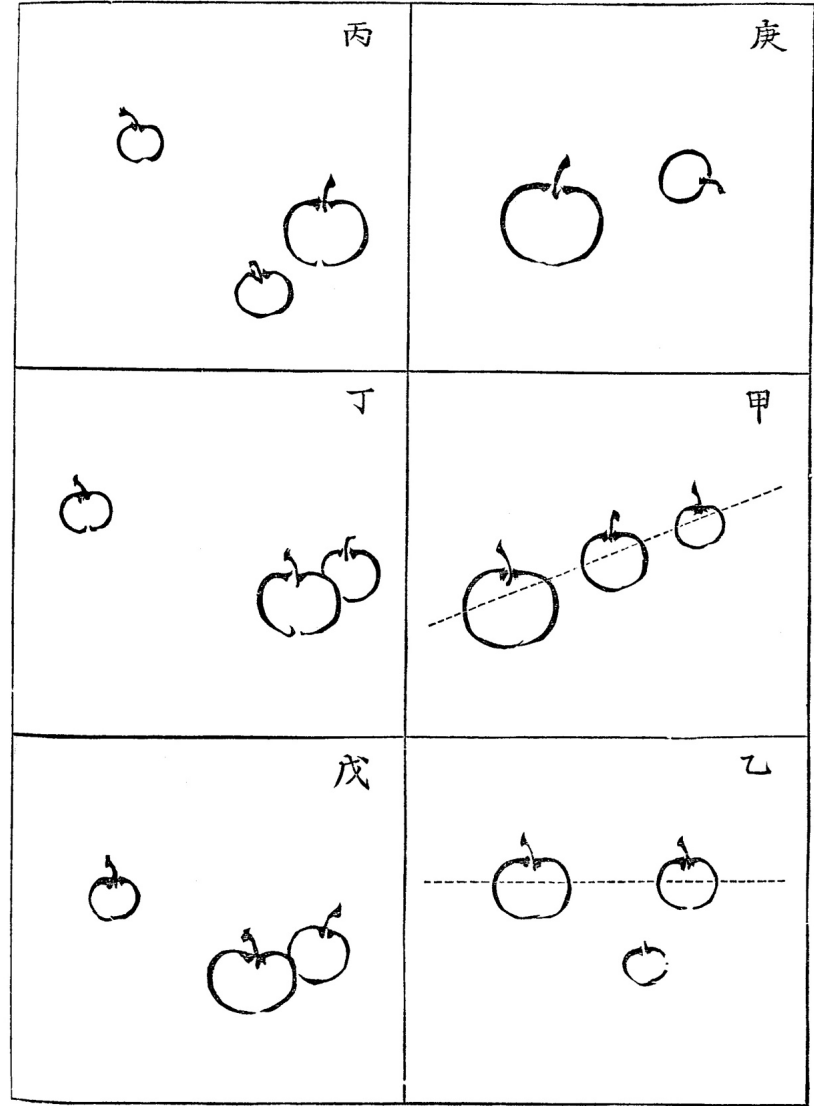
丙 上二圖ニ比シテ上方輕快ニ感ゼラレ、比較的落付ヨキモノ。  
 丁 最良ナルモノナリ、即果實ノ軸ハ右上方ニ出ルヲ以テ、其勢矢ノ方ヲ向フノ感ジアリ、故ニ其方向ニ多クノ餘白ヲ取ルヲ可トス、即梨果ノ大體ハ圖中ニオサマリヨキモノナリ。  
 以上ノ例ノ如ク、戊己ノ如キ複雑シタル圖樣ニ於テ、戊ハ己ニ比シテ位置良好ナリ、即チ戊ハ大體少シ左方ニ偏シ、己ハ大體左右均合ヨク見ユルモ、(イ)ノ部ハ無用ノ餘白トシテ感ゼラル、ト同時ニ右方ニ餘裕少シ、(ロ)モ亦甚空虚ナリ戊圖(二)ノ如ク果粒此方向ニモ支出スル方宜シ。

七十

第二十一圖 今二個ノ梨果ニ就テ圖樣ヲ批評セントス。

甲 唯二個ノ等大ナル梨果ヲ無意味ニ併列ス、遠近ノ變化ナシ、且何レヲ主トスルカニ惑フテ、看者ノ目ヲ二度同程度ニ惹クハ統一ナシ、

圖 二 十 二 第



七十二

且比例ノ趣味ナシ。

乙 甲ニ比シテ位置遠近ノ變化アリ、比例ノ缺點アリ、甲ニ比シテ圖ノ主眼アリ。

丙 小ナルモノ後方ニ、其底部大ナルモノ下方ニアルハ、理學的缺點トス、且軸ノ方向平行シテ左上方ニ向フ、從テ變化ナク、其權衡均齊セズ、(イ)ノ邊空白ナルヲ覺ユ。

丁 以上ノ各缺點ヲ去レルモノ、而シテ軸ノ方向左右ニ向フテ權衡アリ、軸ノ傾斜ノ度ハ相等シカラザルヲ要ス。

己庚 ノ如キハ亦良好ナル配置ナリ、戊ハ小ナル方ノ軸(ロ)ノ方向ハ可ナルモ(イ)ハ不可トス。

更ニ大中小三個ノ排列ニ就テ述ベントス。

第二十二圖 甲ハ順次同比例ヲ以テ小トナリタル三個ノ梨果ヲ排



列ス、尙變化ヲ望マバ大サノ比三者等シカラザルヲ欲ス、三個間ノ距離ニ變化ナシ、其三個ノ直線上ニ排列シタルハ甚忌ムベシ。

乙 前者ニ比シテ稍可ナルモノ而シテ大中ノ果ヲ通ズル線ハ畫面ノ一邊ト平行スルハ尙ホ不可ナリトス。

丙 前二者ニ比シテ大ニ可ナリ、然レモ丁ノ如ク其二者重疊スルハ尙快トセズヤ。

丁 三果相互ニ統一可ナリ、然レモ左方ノ小果少シク左ニ偏シテ左側窮屈ヲ感ズルト同時ニ中間少シク空漠ヲ感ゼズヤ。

戊ハ最可ナルモノナリ、其軸ノ方向相勾引シテ權衡ヲ得。

以上ハ圖ノ配置ニ就テ拙劣簡單ナル引例ヲナセシノミ、其範圍ノ狭小ナルハ言ヲ待タズ、然リト雖モ以上ノ如キ趣旨ヲ敷衍シテ兒童ヲシテ充分會得セシムルヲ得バ臨畫、寫生等ヲ分解結合シテ新圖ヲ作ラシメ、或ハ模様ノ工夫ヲナサシムルニ當テ利用シ得ルコト多カルベシ。

### 批評及採點附記名。

圖畫教授ニ於テハ批評ノ効、特ニ多キモノニシテ、若シ批評ニシテ宜敷ヲ得ザレバ何程畫クモ其効全ク獨學ニ等シク殆ント進歩ヲ見ル能ハザルモノナレバ、批評ハ教師ノ最モ注意スベキコトナリ、若シ批評ニシテ宜敷ヲ得ル時ハ兒童ハ圖畫ノ觀察ニ精確ナルコトヲ得、自然ニ興味ヲ増スモノナリ。

批評ハ教師コレヲナスノミナラズ、屢々兒童自身ニコレヲナサシムベシ、兒童ノ畫ク間教師ハ机間ヲ近視シテ指揮誘導シ、既ニ畫キ終リタル時ハ、豫テ見トメ置キタル優等ノ畫二三枚及劣等ノ畫二三枚ヲ取り漸次ニ一枚ヅ、カ或ハ一度ニカ之ヲ黑板上ニ張附シ、相比較シ

テコレヲ批評シ或ハコレヲ批評セシメ或ハ改正スベキハ改正セシメ  
 メ其點ハコレヲ賞シ、避クベキ點ハコレヲ避クベキノ注意ヲ與フル  
 ノ方法ヲ取ルベシ、然レモ批評ヲ即席ニナシ難キコトアルモノナレ  
 バコノ時教師ハ自宅ニテ審査シタル後優劣ノ著シキモノ、又ハ容易  
 ニ改正シ得ベキモノ等ニ批評ヲ記入シ、他日之ヲ兒童ニ批評セシメ  
 テ返附スベシ、又高等科上級ノ兒童ニ至リテハ時々相互ニ其ノ畫キ  
 タル畫ヲ交換シテ相互ニ批評ヲ記載セシメ教師コレヲ判定スルモ  
 可ナリ、コノ時ハ畫者ノ姓名ハ通常紙ノ裏面ニ書カシムベシ、是批評  
 スルニ遠慮ナクシテ公平ニ批評シ得ベケレバナリ。

批評ノ基礎ハ比例、統一、均齊、變化等ニアリ。  
 圖畫科ノ主要ナル臨畫、寫生畫、考按畫及幾何畫法ニ就テ批評ノ要點  
 ナ左ニ示サン、各種類ノ畫ハコレニヨリテ類推スベシ。

臨畫 臨畫ニ於テ批評ノ緊要ナルコトハ前述ノ如シ、其ノ臨本既ニ  
 比例、統一、均齊、變化等ノ諸元素ヲ含ミ居ル故之レヲ批評スルノ要ナ  
 シ、然レモ考按ノ豫備トシテ一通リノ注意ヲ與ヘ置クベシ、臨畫ニ於  
 テ批評スベキ點ハ第一筆力、位置、形似、大小、濃淡、彩色等ナリトス、臨畫  
 ノ初歩、即チ初年級ニアリテハ專ラ筆力及運筆ニ就テ批評シ、稍進ミ  
 テハ位置大小及ヒ形似ニ就テ評スベク、更ニ一層進ミテハ濃淡彩色  
 等ニ就テ批評スベシ。

批評ハ分解的タルベシ、分解シタル評ヲ總合シテ評點トナスベシ、分  
 解的トハ線ニ就テ云ヘバ何、位置ニ就テ云ヘバ何、形似ニ就テ云ヘバ  
 如何、濃淡、彩色ヨリ云ヘバ如何ト云ガ如シ。

寫生 寫生ニ於テ批評スベキ點ハ殆ンド臨畫ニ同ジ、唯ダ寫生畫ニ  
 於テハ、其ノ形ヲ畫クニ當リテ實尺ノ爲メニ迷誤セラレテ、現ニ見ユ

ルマ、ニ畫ヲ得ザルモノ多シ、即チ稍複雑ナルモノヲ畫クニ當リテハ或ハ比例ヲ失シ、或ハ統一ヲ缺ク等ノ事アリ、コレ等ノ點ニ注意ヲ要ス。

考按畫 考按畫ヲ課スルハ臨畫、寫生畫等ヲ練習シタル後故、位置、形狀、運筆、濃淡等ノ大畧ハ心得ナル故、主トシテ批評スベキ點ハ比例統一均齊變化等ニアリテ、コレ等ノ全備セルモノ、即チ考按ノ善良ナルモノナリ。

幾何畫法ノ批評 批評スベキ要點、法理ノ合否、順序ノ正反用具ノ精否ニアリ。

採點 採點ノ法ハ大ニ兒童ノ興味ヲ喚起スルモノナリ、即チ甲、乙、丙、丁、或ハ上、中、下、或、美、良、可、稍可、等ニ各上階ノ下ノ部ト次階上ノ部ヲ比較シ、彼是斟酌スルヲ精ナリトス、又々學期末學年末等ノ成績ヲ要ス

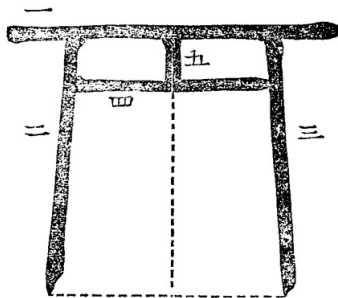
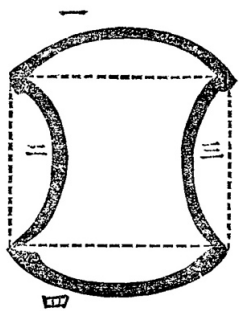
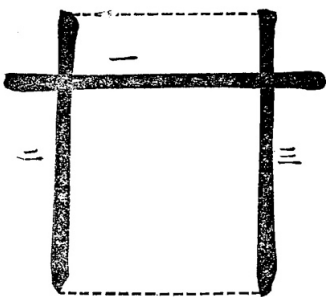
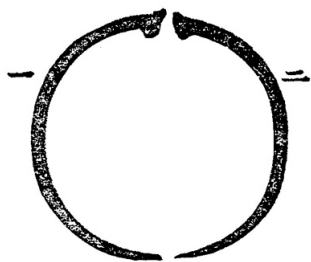
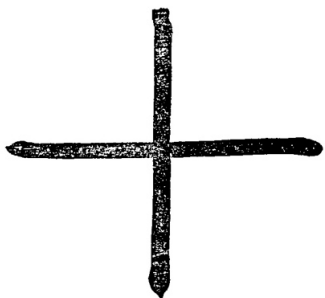
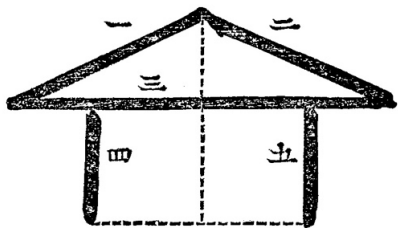
ル時ハ其ノ時ノ良否ヲ以テ直チニ判斷セズ、必ズ平常ノ成績ヲ充分ニ考查シ置キ、コレ等ヲ斟酌シタル成績ニヨルベキナリ。

記名 記名ハ内容ト同一ニ清潔且ツ嚴正ナル字格、即チ細楷ヲ用井シムベシ、其位置ハ繪元トナスヲ常規トスレド小學兒童ニアリテハ總テ左ノ下方ニ姓名ヲ記スヲ以テ適當ナリトス。

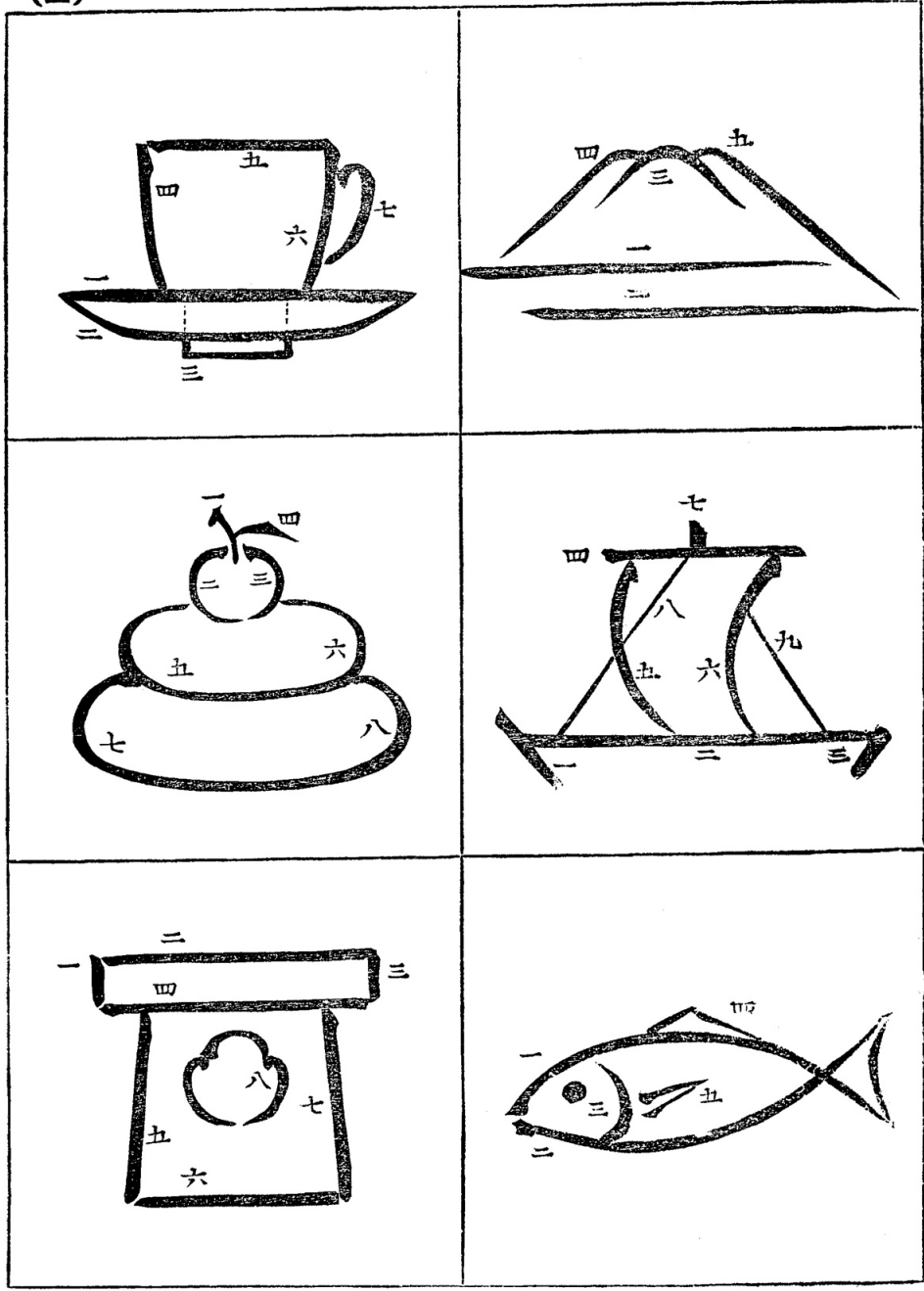
(最モ必要ニ應ジテハ必ズシモ左下方ニ記スルニ及バズ圖樣ニ應ジテ適宜ノトコロニ記サシメテ可ナリ、コノ位置ニ就テ特ニ注意スベシ)又々年月日年級等ヲ併スルモ妨ゲナシ、然レ成成ベク餘分ノ文字ヲ書セザルコトニ留意スベシ、コレ紙面ヲ汚穢ニスル恐アレバナリ又々兒童相互ニ批評セシムル時ニハ其ノ公平ヲ得ンガ爲メ裏面ニ記名スルヲ可トス。

教授法舉

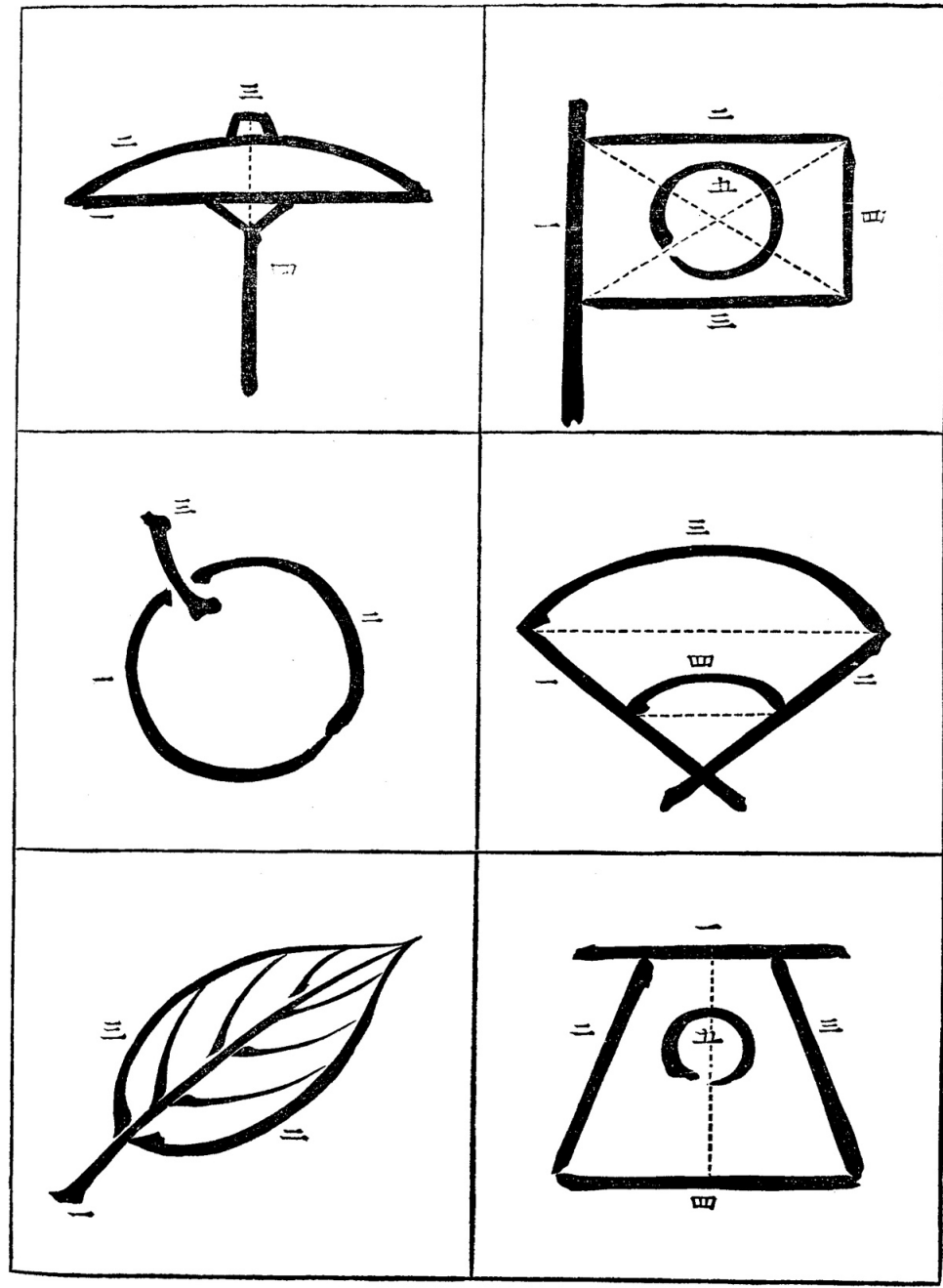
(一)



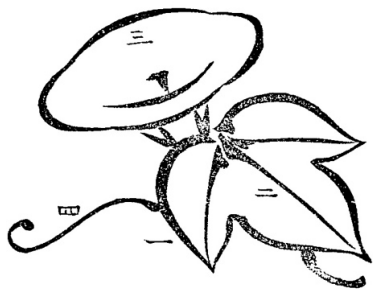
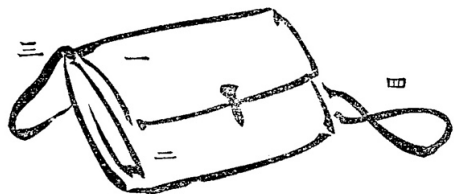
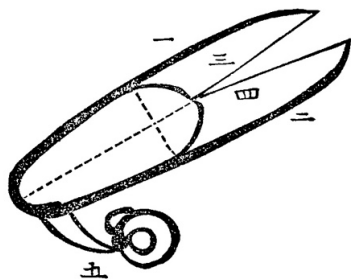
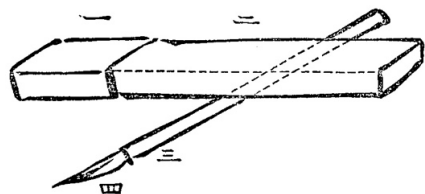
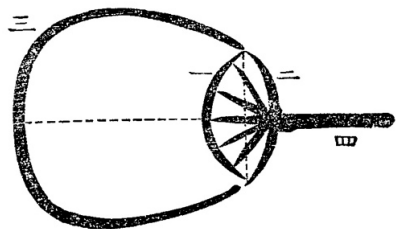
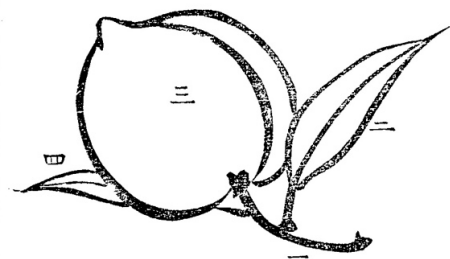
(三)



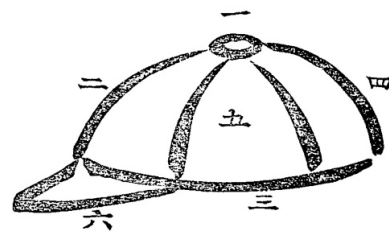
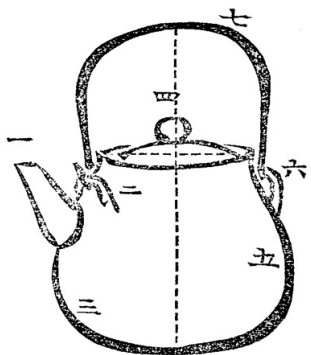
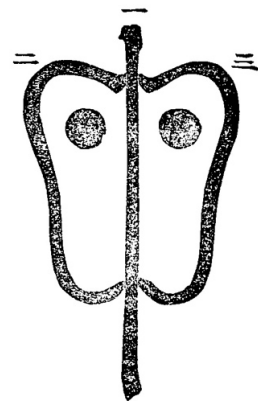
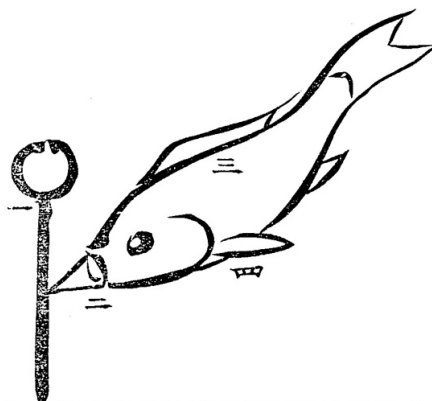
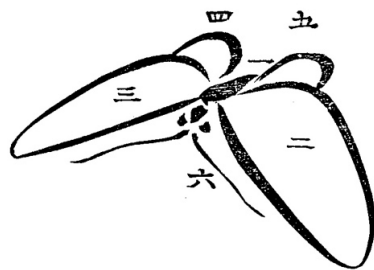
(二)



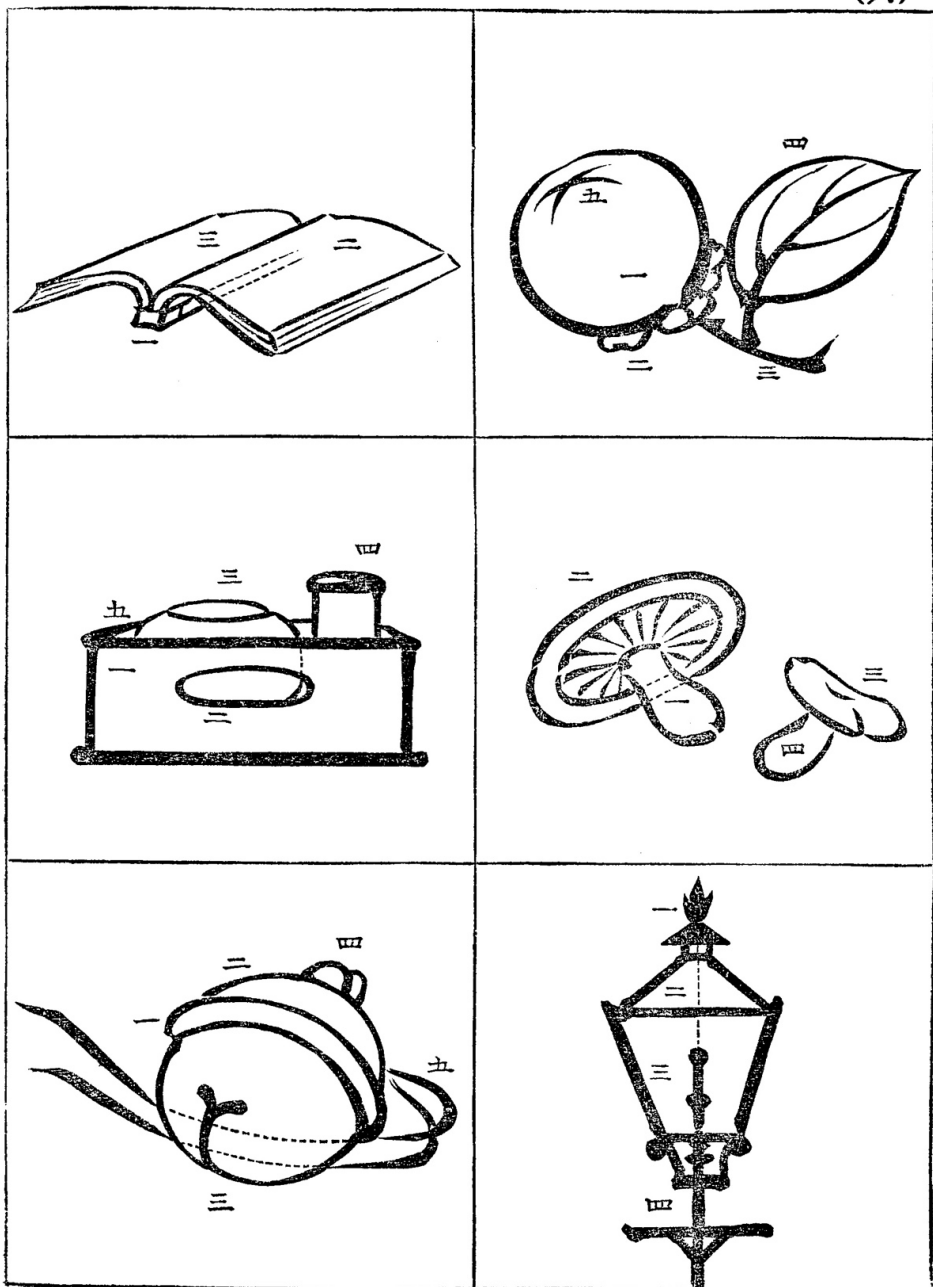
(五)



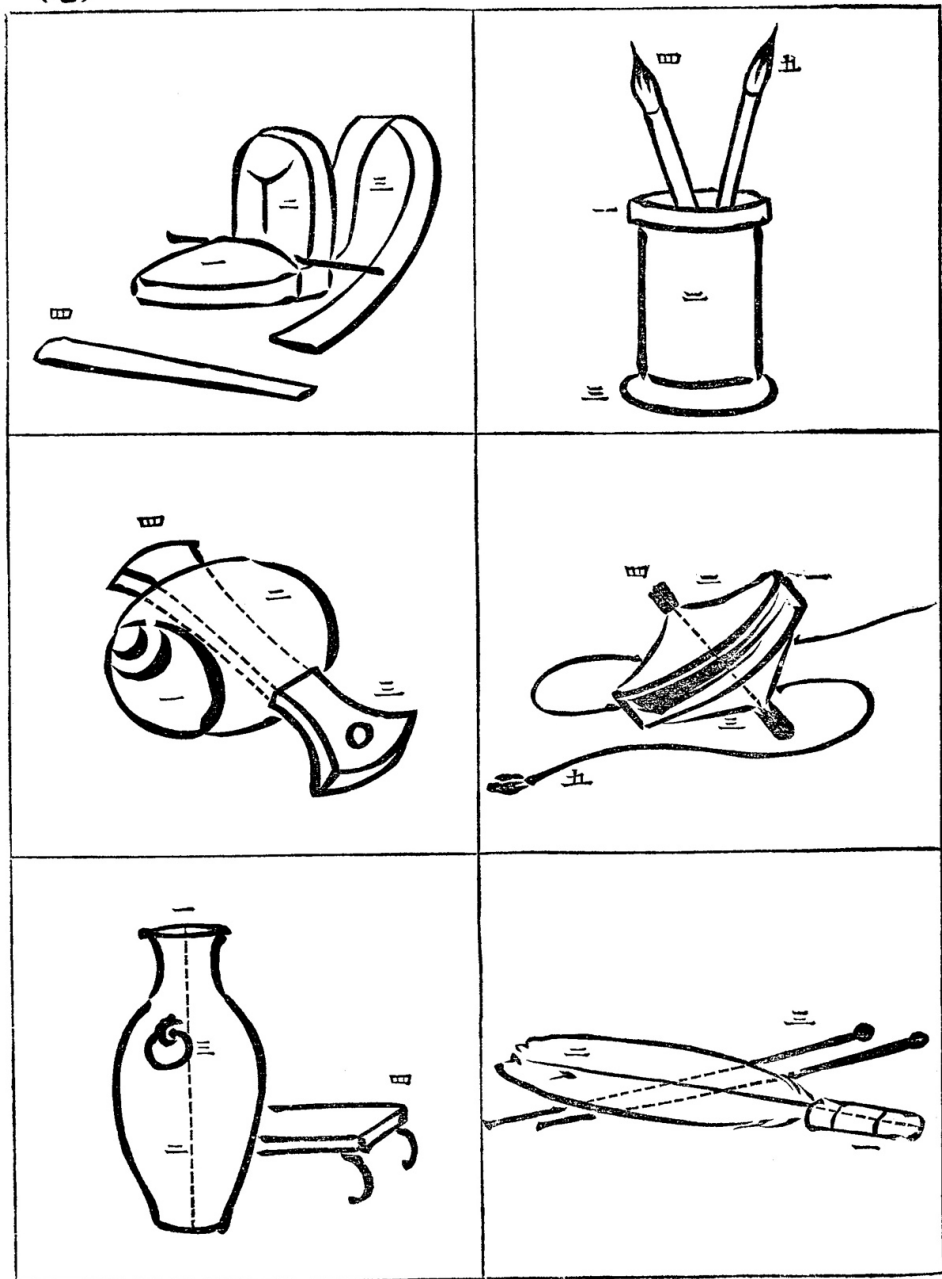
(四)



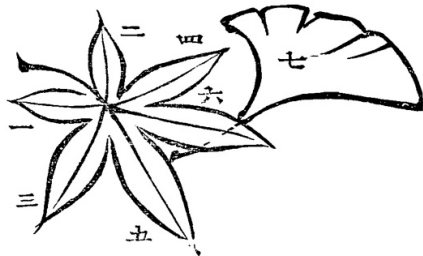
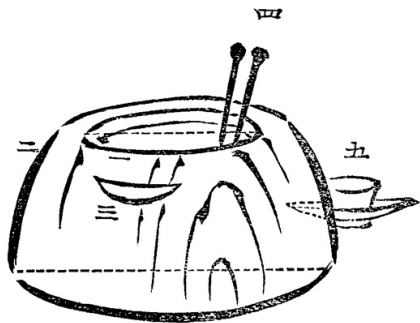
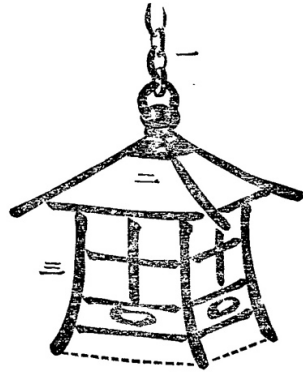
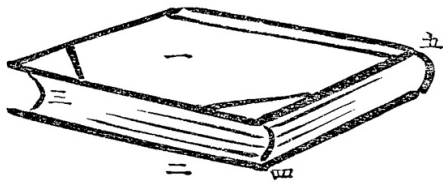
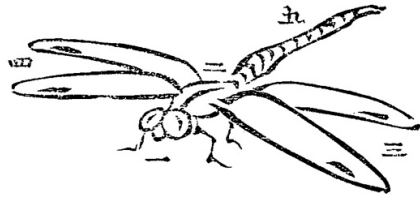
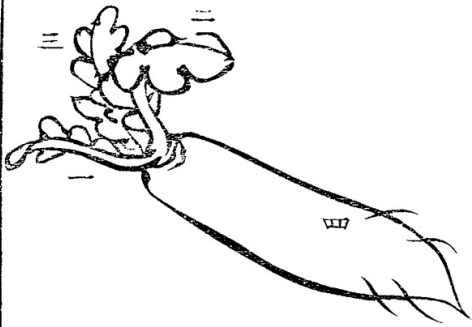
(六)



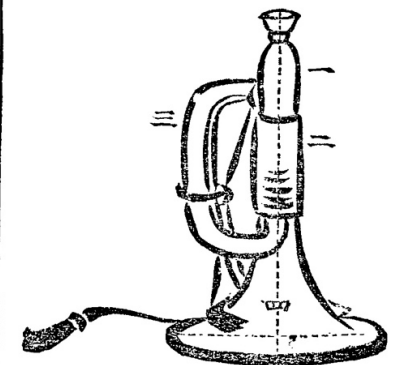
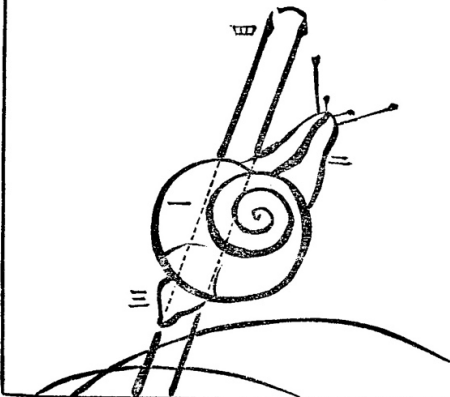
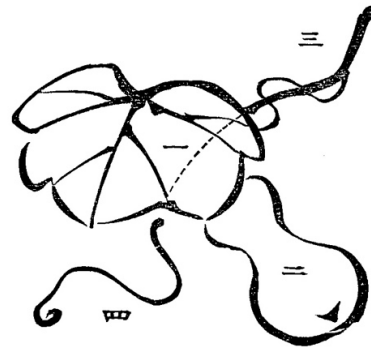
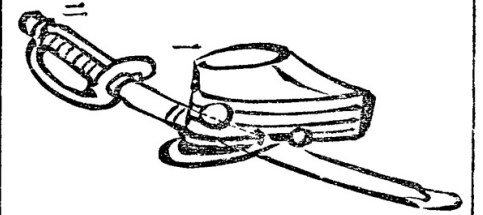
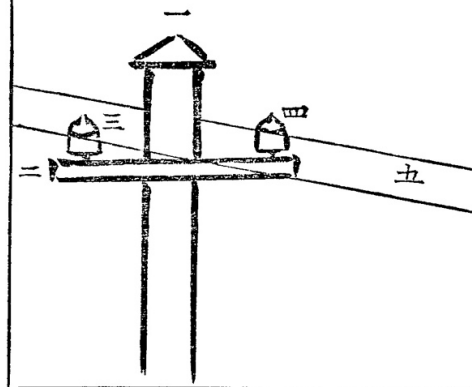
(七)



(九)

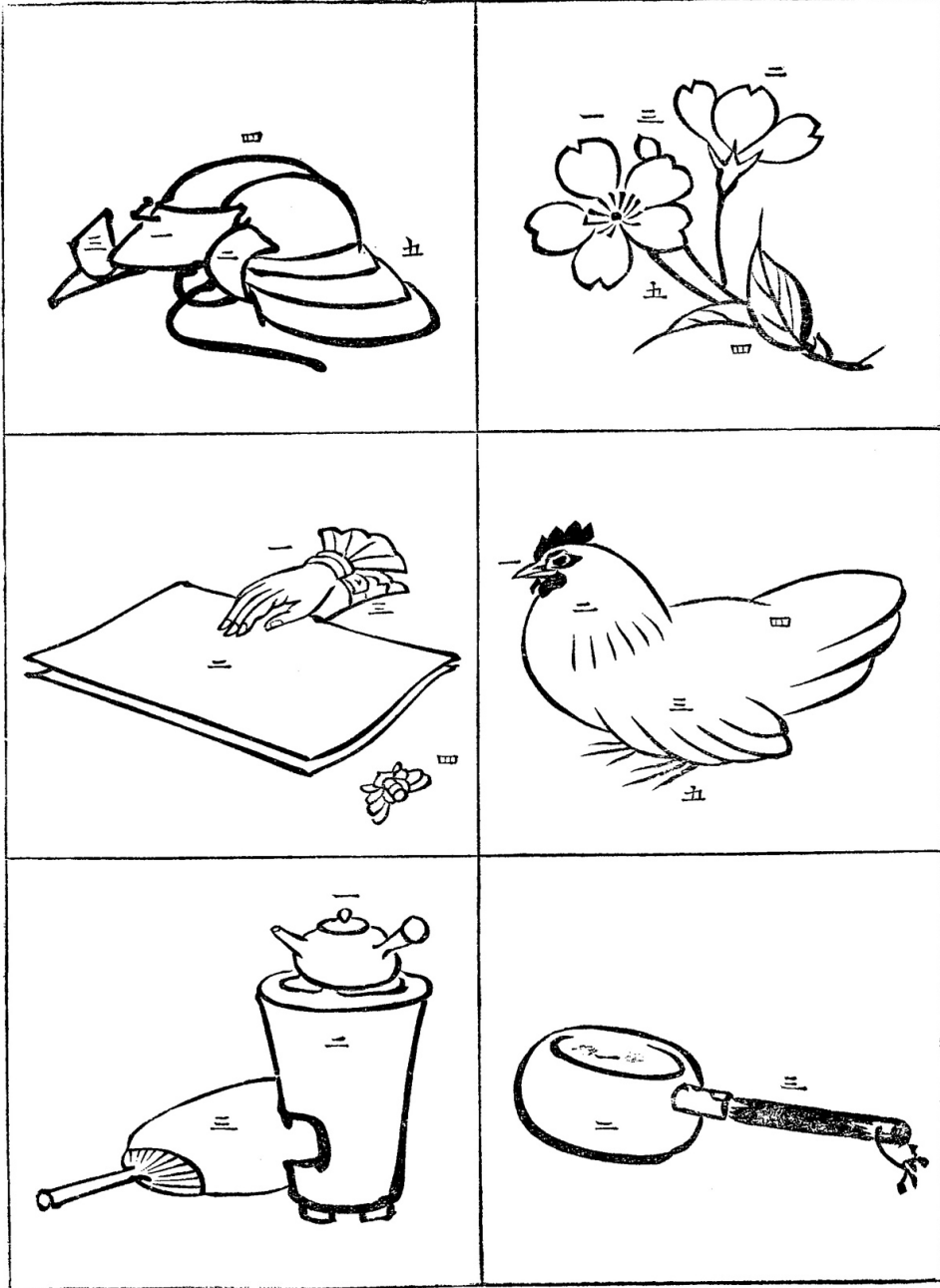


(八)

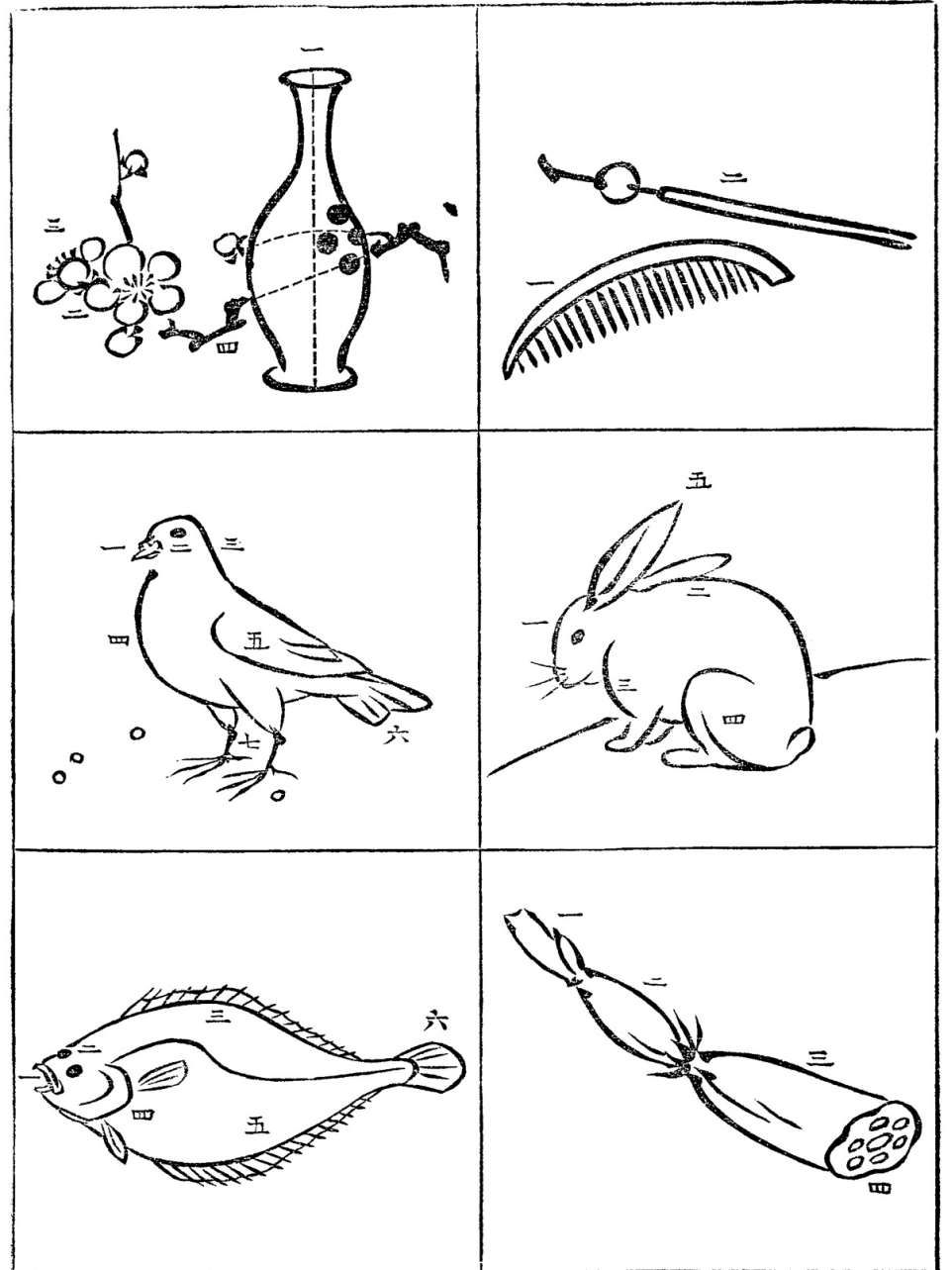




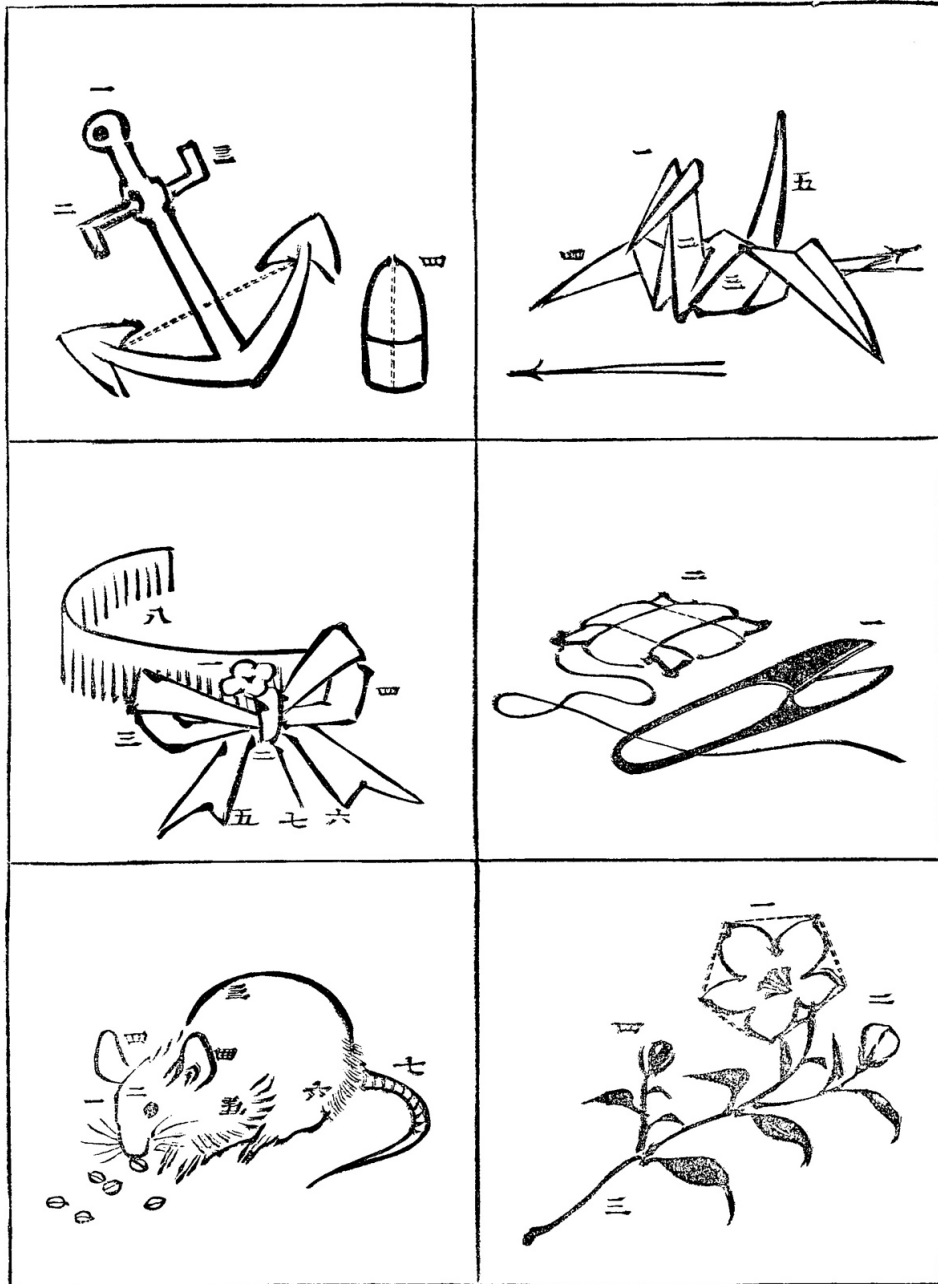
(十一)



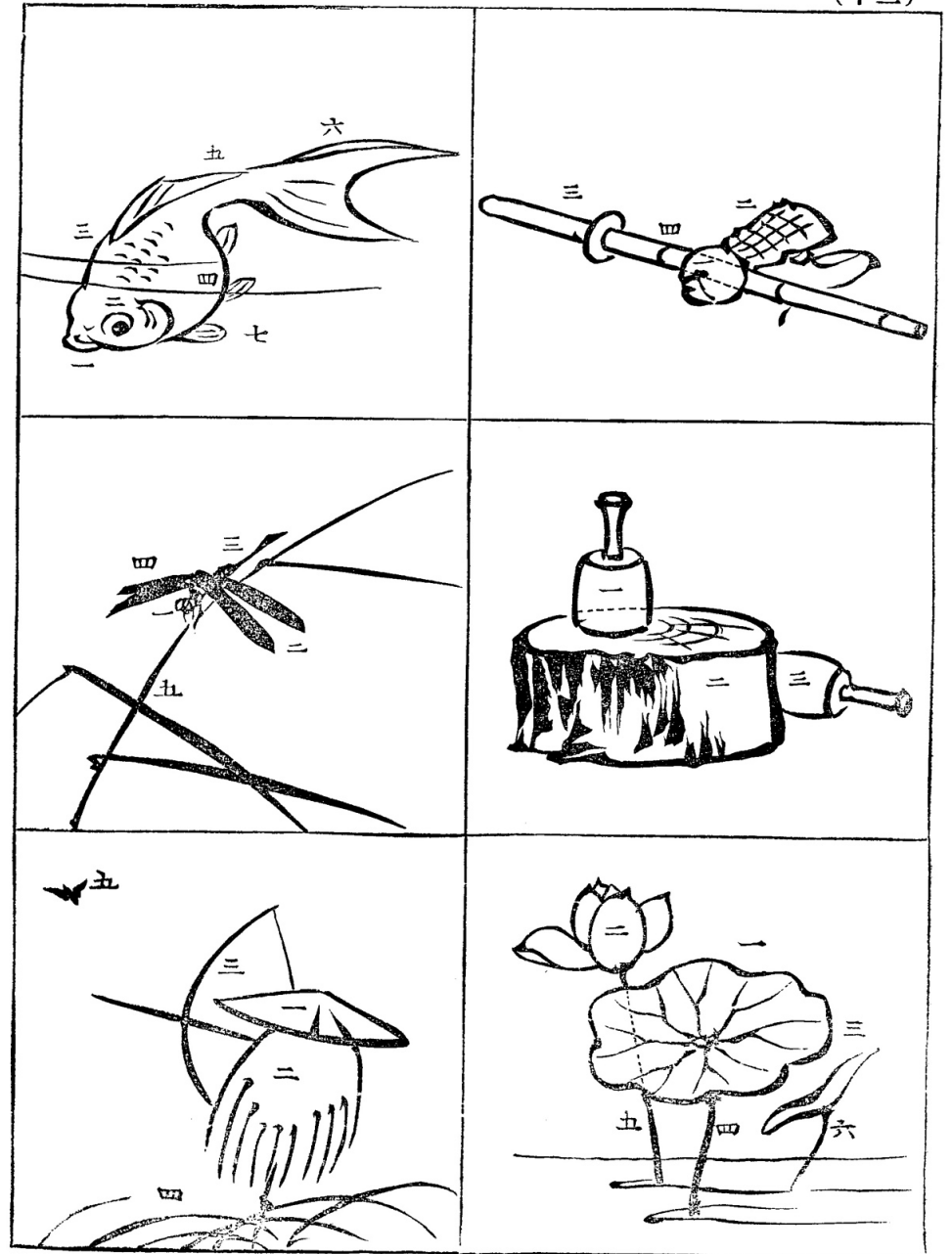
(十)



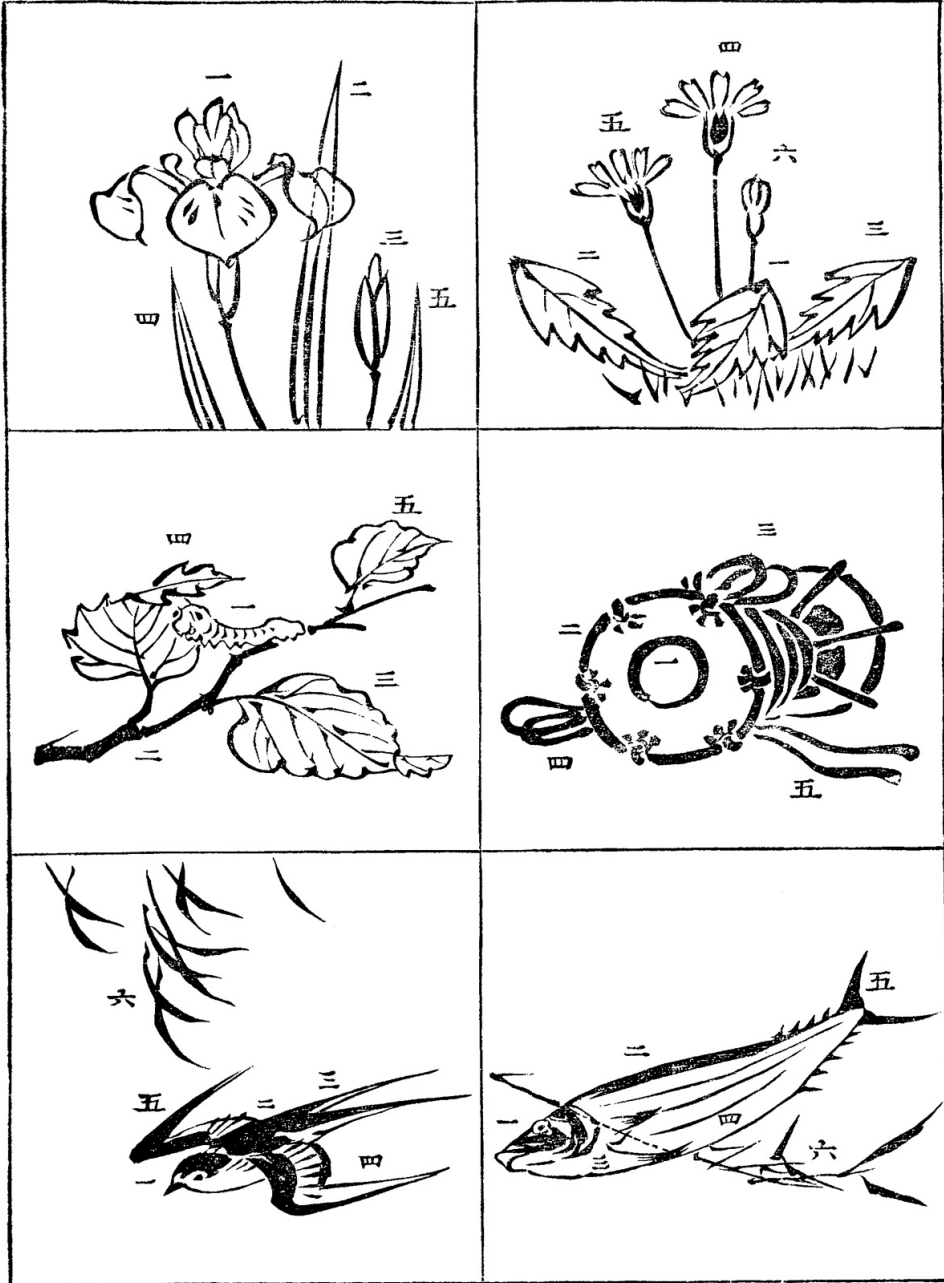
(十三)



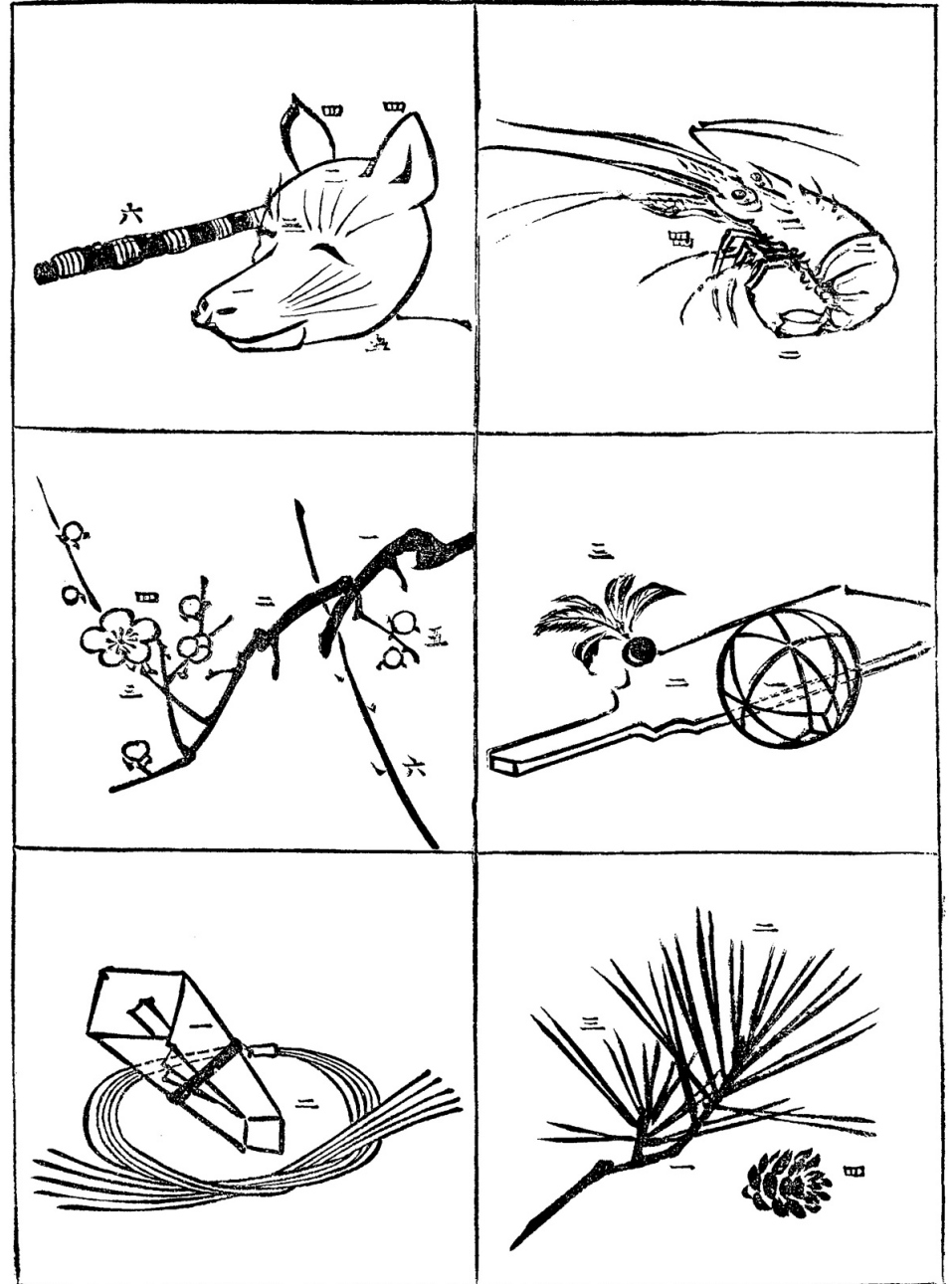
(十二)



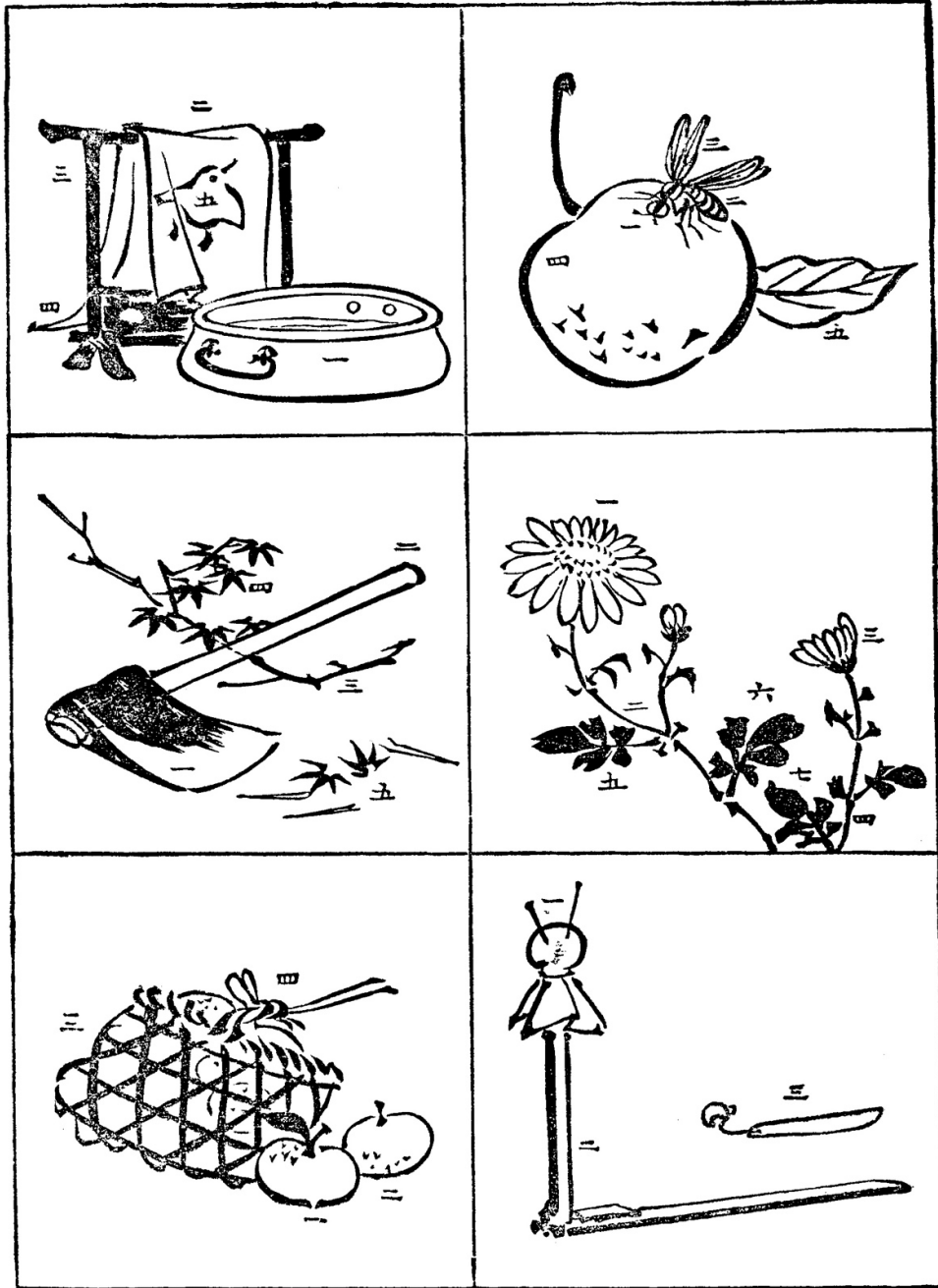
(十五)



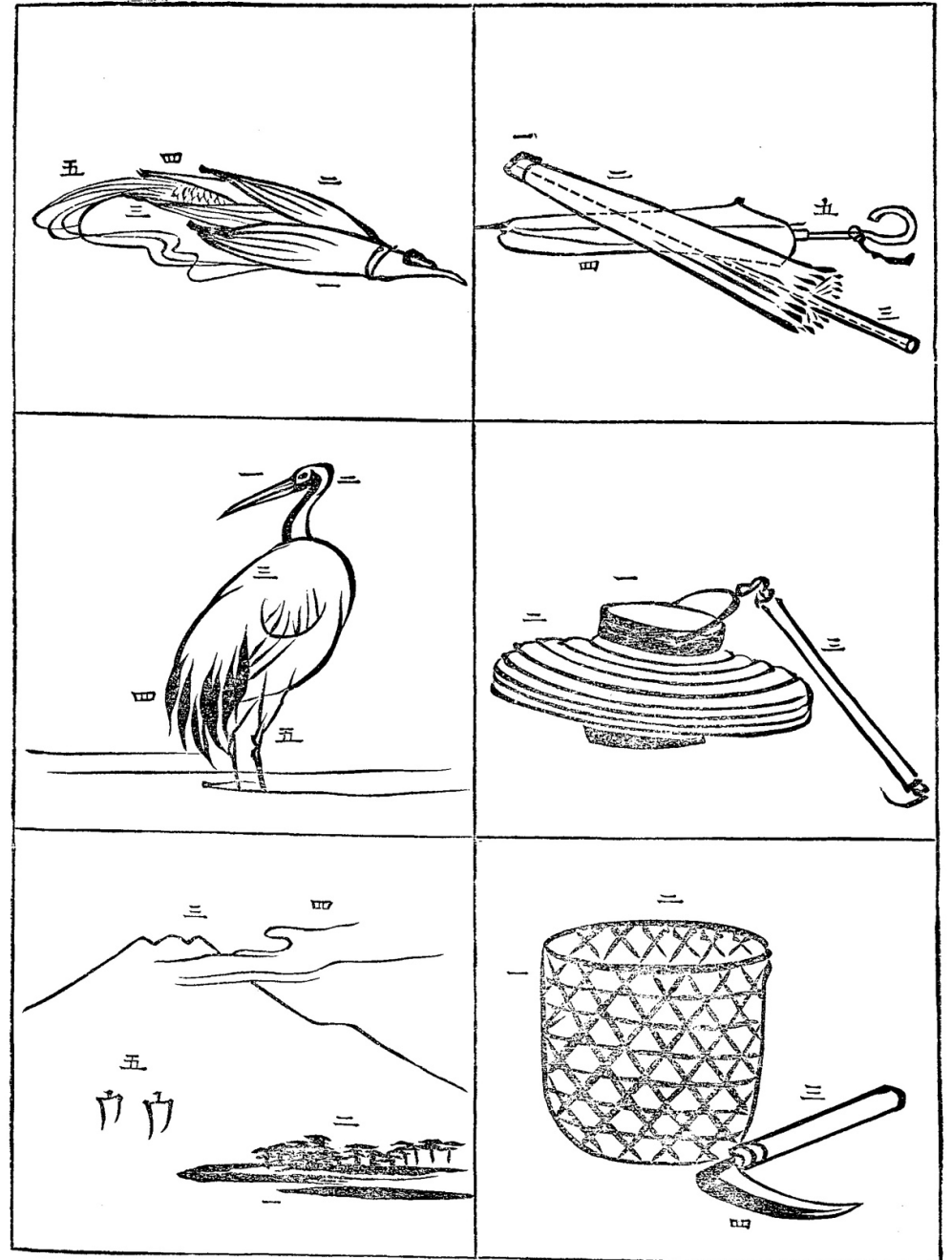
(十四)



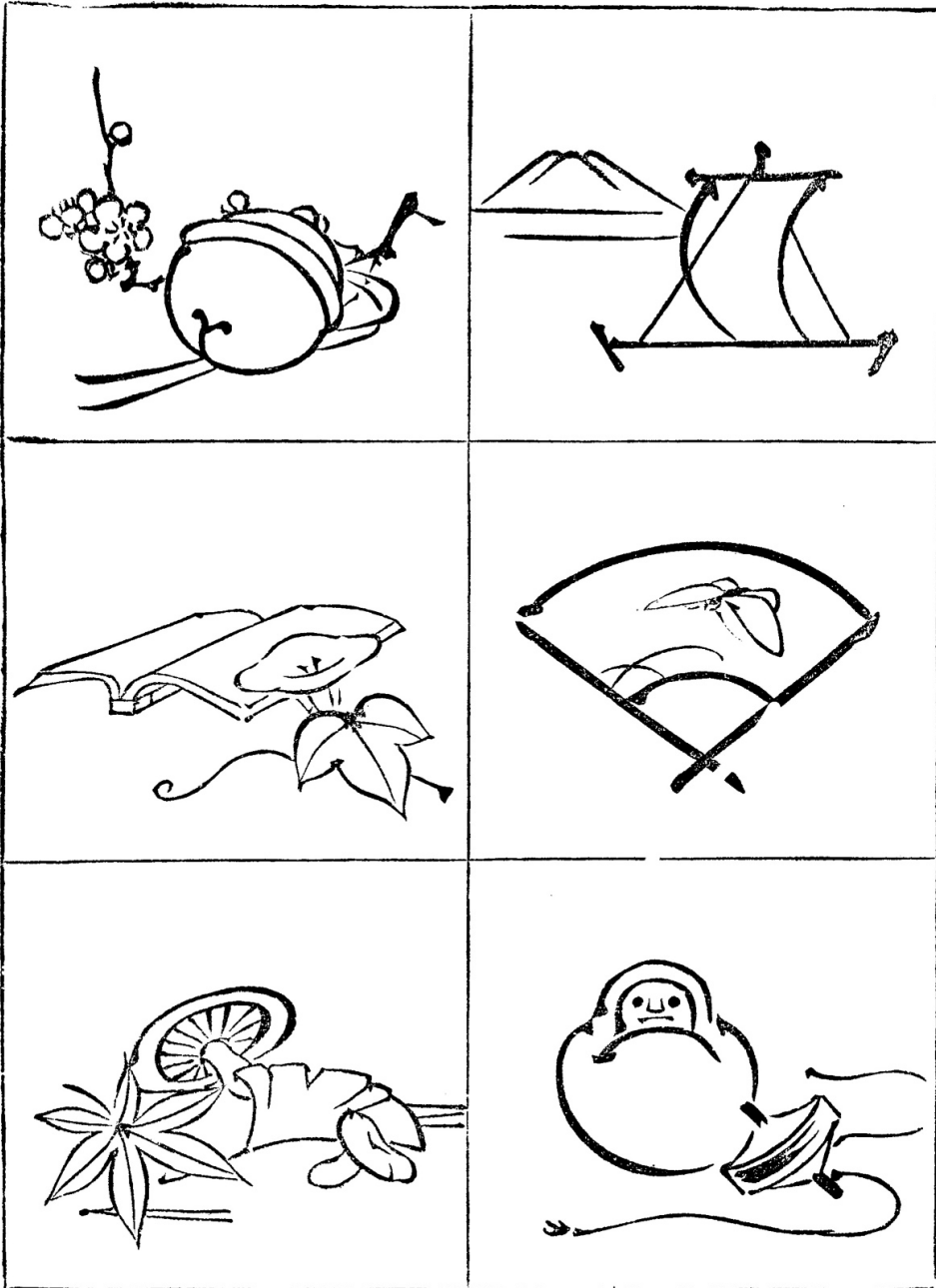
(十七)



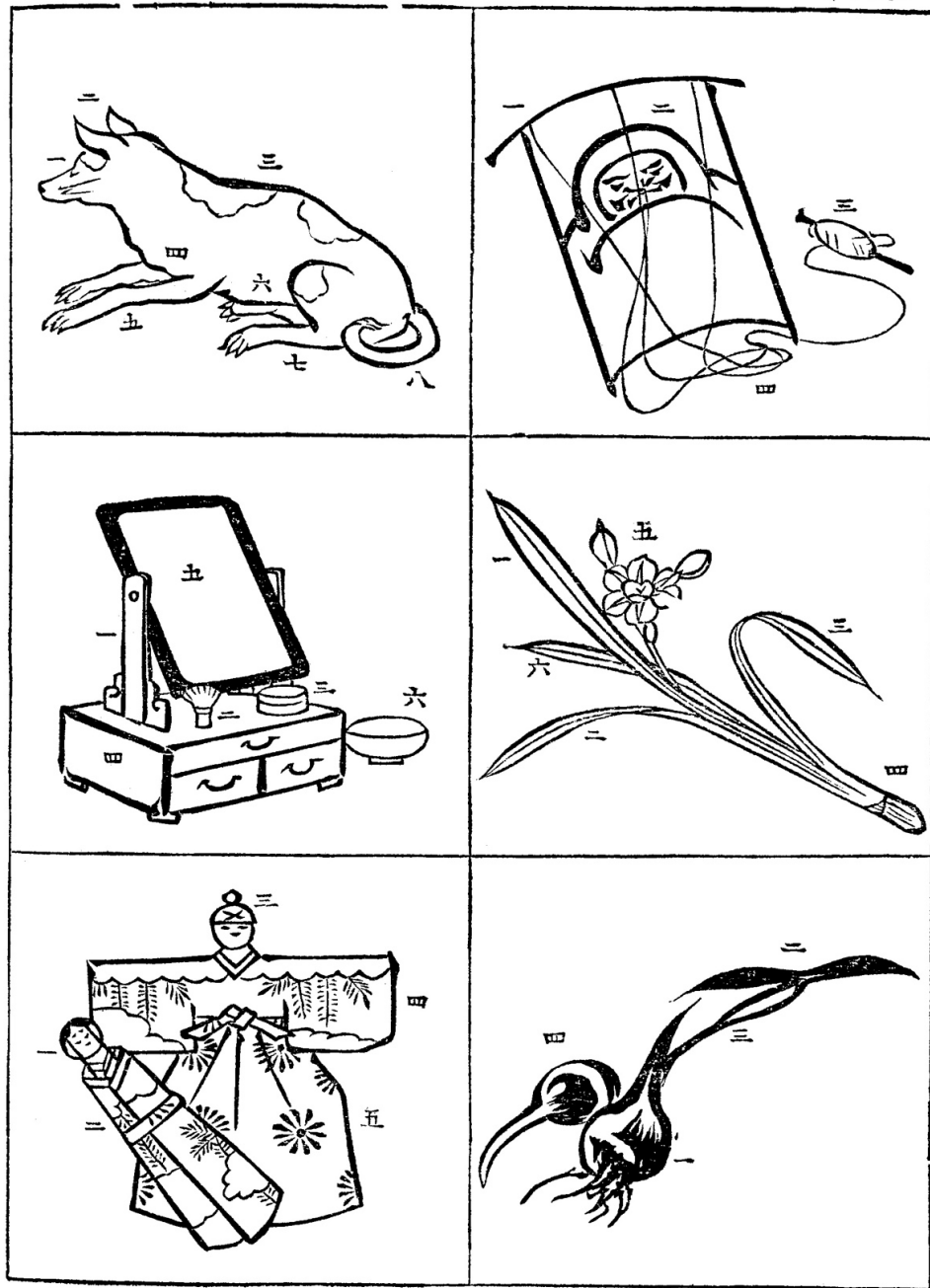
(十六)



(十九)



(十八)



明治三十五年十一月十四日印刷  
明治三十五年十一月十七日發行

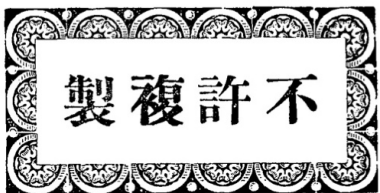
著者 川端玉章

著者 柿山蕃雄

著者 龜井忠一

發行所 三省堂書店  
東京市神田區裏神保町一番地

印刷所 三省堂印刷部  
東京市神田區三崎町第十二號地



不許複製

毛筆畫教授法  
定價金二十五錢